



東京歯科大学広報



金子 譲理事長・井出吉信学長就任

2011年6・7月

249号

本号の主な内容

・金子 譲理事長・井出吉信学長就任	1
・理事長・学長就任式挙行	2
・法人役員の選任	8
・平成23年度新入生学外セミナー	15
・平成24年度東京歯科大学入学試験要項	34
・平成22年度財務の概要	39

■金子 讓常務理事が理事長に就任される

平成23年5月31日をもって法人役員（※寄附行為第8条第1項に規定する理事を除く）が任期満了を迎えるにあたり、去る5月31日（火）開催の第671回理事会、第226回評議員会において、寄附行為第8条第2項に規定する理事並びに寄附行為第9条に規定する監事、寄附行為第8条第3項に規定する理事選任に関する会合において、寄附行為第8条第3項に規定する理事が選任された。

新役員が選任されたことに伴い、新役員の内選により、金子 讓常務理事が理事長（第7代）に選任された。また、金子理事長は、寄附行為第15条に規定する「理事長の職務の代理及び代行を行う者」に井出吉信常務理事を指名した。

■井出吉信学長就任・新人事発令される

平成23年6月30日をもって学長職を退任する金子 讓理事長・学長の後任の学長選任は、学校法人東京歯科大学寄附行為に定められた手続きに従い、理事会からの次期学長推薦の諮問を受け、平成23年6月14日（火）開催の第587回全体教授会（臨時）において副学長井出吉信教授が全会一致で推薦された。教授会の答申を基に、6月21日（火）開催の第672回理事会並びに第227回評議員会において井出副学長の7月1日付け学長（第11代）就任が決定された。

さらに、6月21日開催の第672回理事会において、寄附行為施行細則第5条に規定する役職者として、新たに副学長に石井拓男教授（歯科衛生士専門学校長兼務）が7月1日付けで任命となり、副学長の柳澤孝彰教授、千葉病院長の高野伸夫教授、市川総合病院長の安藤暢敏教授、水道橋病院長の戸達也教授（法人主事兼務）、大学院歯学研



金子理事長（右）より辞令交付を受ける井出学長（左）：平成23年7月1日（金）、水道橋校舎理事長室

究科長の井上 孝教授は現職として継続任用される。なお、任期は平成25年5月31日までである。

新役職者の就任に伴い、7月1日（金）午前9時30分より水道橋校舎理事長室において、金子理事長より寄附行為規定の新役職者である井出学長、石井副学長に対する辞令交付が行われた。



辞令交付式後に、向かって左側より井出学長、金子理事長、石井副学長：平成23年7月1日（金）、水道橋校舎理事長室

■理事長・学長就任式挙行

金子 讓新理事長、井出吉信新学長の就任に伴い、平成23年7月4日（月）午後6時より千葉校舎講堂において理事長・学長就任式が挙行された。式は、千葉校舎教職員、臨床研修歯科医、大学院生等多くの出席者が見守るなか、戸達也法人主事の司会により開会となった。

はじめに、6月1日付けで就任された金子理事長より、理事長としての責務や学校法人としての役割、今後の方針などについて挨拶が述べられた。次に、7月1日付けで就任された井出学長より、全教職員が一丸となって協力し、誇りに思える大学づくりをしていく旨の挨拶が述べられた。

引き続き、戸達也法人主事から法人役員、寄附行為規定役職者の紹介が行われ、就任式は滞りな



理事長・学長就任式会場：平成23年7月4日（月）、千葉校舎講堂

く終了した。



理事長就任挨拶をする金子理事長：平成23年7月4日（月）、千葉校舎講堂



学長就任挨拶をする井出学長：平成23年7月4日（月）、千葉校舎講堂

学校法人東京歯科大学寄附行為規定役職者

〔平成23年7月1日現在〕

< 任命期間：平成22年6月1日～平成25年5月31日（定年退職者は当該日まで） >

東京歯科大学

学 長	井 出 吉 信	23年7月1日 新任
副 学 長	柳 澤 孝 彰	
副 学 長	石 井 拓 男	23年7月1日 新任
千葉病院長	高 野 伸 夫	
市川総合病院長	安 藤 暢 敏	
水道橋病院長	一 戸 達 也	
大学院研究科長	井 上 孝	

東京歯科大学歯科衛生士専門学校

校 長	石 井 拓 男
-----	---------

法人主事の任命（平成23年6月1日付）

法人事務局

法 人 主 事	一 戸 達 也	継 続
---------	---------	-----



理事長就任のご挨拶

金子 譲

皆様、お忙しかった一日の後こうしてお集まりいただきまして、ありがとうございます。今、一戸達也法人主事からご紹介に与りましたが、6月1日から理事長を仰せつかりまして、1ヶ月学長と兼任致しました。7月1日から理事長専任ということで、ここ数日はまだ慣れない仕事の中におります。

井上 裕先生が3年前の6月に急逝されまして、夏は私が代行致しましたが、ご案内のように当時の熱田俊之助常務理事が理事会で理事長に選任されました。その任期は3年でして、学長その他学務職の任期も3年です。理事会と学務職の任期の終了時期がずれておまして、1年前に学長を仰せつかった訳ですが、その1年後が理事会の役員任期満了でした。ひとつは、昨年学長を再任されて、後2年を残す中で退席させていただくことに対して、教授会でご了解を得ましたが、皆様には事情を勘案していただきまして、私の任期途中での退席をお許しいただきたいと思っております。それから後任は井出吉信副学長が新学長に就任されまして、この任期は先ほどお話ししました学務役職の任期の残期(2年)ということになります。

理事長は言うまでもなく大変な重責でして、井上先生が最後のお仕事として決めて下さった「大学の移転」を、熱田理事長が3年弱の間変更することなく円滑に遂行するというご意志をはっきりと表明して下さいまして、我々もそれに従って実行して参りました。5月の役員任期満了に伴いまして、熱田理事長はお年や健康上のご事情かと思いますが、再任は遠慮したいのご意志がございました。理事長は理事の互選ということで、熱田理事長が私を推薦して下さいまして、理事のご信任を得て理事長に就かせていただいた経緯になります。実を言いますと、大学の理事長と学長の役割が私は多少整理がまだよくついておりません。というのも、理事会、理事長の役割は経営ということをはっきりしておりますが、学校法人の経営というのは企業の経営と違って、利潤追求では決してない訳ですが、利潤というのはそれが無いと学校法人としての役割、つまり「教育」「研究」、そしてこういう大学ですと「診療」が円滑に遂行できないことになります。大学はお金を目的に会社運営をする企業と全く違っております。理事会としての経営といっても、経営の中身は、つまり経営基盤となるのはこの3つですから、理事会方針と大学の方針は一体でなければ健全な学校運営が十全にできないことになります。従って、戸惑っているというのは、学長を経験させていただいた中で、大学の役割というのが経営そのものにも関わるといって、法人としてどこまでを経営と大学の役割を結びつけて、どこまでを学長を中心とした役職の先生方や大学の皆様にお伝えしていけるのかということになります。これから教学と経営との住み分け、或いはその融合というところはきちんとしていきたいと思っております。混乱させては学長に申し訳ないことにもなりかねません。法人の役割の明確化といいますか、はっきりはしていますが、具体的にになりますとその大学の運営方針、運営形態というのは、それぞれの大学が独自に行うということです。

現状はどうかというご理解をいただく為に、文科行政の変化を紹介させていただいて、歯科大学・歯学部現状を、そしてこれからの学校法人としての方針を少しお話しさせていただきたいと思っております。現在は教育の面、要は文科行政の面からいいますと、3回目の大きな教育改革のさなかにあるといわれています。最初は明治維新による近代化の頃、2番目が敗戦後の教育制度が一変した頃、3番目が1991年(平成3年)からの大学設置基準の大綱化、いわゆる大学の設置に非常に大きな規制緩和があった以降となります。その3番目の大きな事柄というのが、それまでの国からの護送船団方式がなくなり、大学間競争の中での資金獲得にシフトしていることがはっきりしています。このことは1998年(平成10年)に文科省の大学審議会が答申をしておまして、「競争的環境の中で個性が輝く大学」が望ましいという目標を国の方針として出されております。東京歯科大学もこの点では、文科省のいろいろなプログラムやプロジェクトに一所懸命アプライしながら、特に教育ではGPなどを含めて獲得をしており、これは競争環境の中で大きな成果で、時代に即したということだと思っております。さら

に2004年(平成16年)、私立学校法の改正がありました。この主旨は、「学校法人が最近の急激な社会情勢の変化に適切に対応し、様々な課題に対して、主体的、機能的に対応していく為の態勢強化を行う事」であり、中身の概要は「学校法人における管理運営制度の改善」ということがあります。これは役員会の制度の整備と権限・役割分担の明確化といわれております。2番目は「財務情報の公開」で、学校法人の公共性を一層高める為に、財務の状況を世間に公開すること、この2つが大きな改善点というわけです。東京歯科大学もこれに沿って既にやっています。

こういう時代の中にあって、歯学部はどうなっているのかとなると、ご存じのようにひとつは定員削減問題があります。東京歯科大学はそれを行わないことを2年前からお話しさせていただいています。それから募集定員不足が、私立歯科大学・歯学部で相当数起きています。定員を充たした大学は去年は6校だけで、総募集定員の2割が足りないという大変危機的な状況にあります。各大学ではこの対応策として、ひとつは学納金の減額で、みな下げており、全然手つかずなのは3、4校です。東京歯科大学は下げていません。やはり質を高めて、魅力的な大学にして学生さんを集めていくことを今やっております。学納金減額の必要性は誰もが思うことですが、この件はこれから移転の為の経費、その他いろいろ勘案しながら、その方向に向けていくことになると思います。東京歯科大学だけ突出した高額というのは考えられない、と法人としては大きな課題になるかと思えます。減額をした場合、質を落とさないでどうやって学生教育を十全にしていけるのか大きな課題です。現場でこれをやっていただくのは、教職員の皆様ですから、法人としての大きな方針が出た時には、充分情報を公開しますが、同時に皆様も積極的にその意味を理解していただけるようにと思っています。歯科大学のこの現状がこのまま続きますと、患者さんの要望が多様化している中で、歯科医師、歯科医療の質が社会的に問題にされる時が目前に迫っていると認識しております。他大学がどうこうと言う必要はないので、ただ、東京歯科大学はきちんと質を確保していくということでもあります。これは新学長の方針も同様で、法人としても最も根拠的にお願いしたいところです。

東京歯科大学は、こういう状況の中で、やはり先導性のある歯科大学としての役割をしたいと強く願っております。現状では合格点であろうと考えております。文科省がいろいろな項目をたてて、○と×をつけており、それをご覧いただければわかります。それから移転事業をきちんとやり遂げることです。これから人事の問題も残っておりますし、跡地の問題ですとか、新しい医療施設をどういう形態にあるいは規模にしていくのかなど、今後の東京歯科大学の診療面での展開の仕方ですとかいろいろなものをこの数年で決めなければいけないことが目前にございます。あれやこれや考えても、やはり財務状況の健全性があって初めて成し遂げられる訳ですので、この点で皆様は日常の診療の中でそこまで考えられないと思うのは当然でありますけれども、少なくとも各部署の長は大学の財務というものを頭に入れていただきながら運営をしていただきたいと思えます。教員のみならず職員の皆様も同様です。喫緊の問題は今お話しした様なことです。

法人の大きな役割は、現在働いて下さっている教職員の生活を守ることと、大学の発展ということの両方を掲げて、具体的には、教育、研究、診療の点では学長が皆様にお申しながら運営していくこととなります。教職員の皆様におかれましては、法人とあまり縁がないかと思えますが、なるべく今後の学校運営を考えますと、経営と学務とは表裏一体となっていますから、ご理解いただくということで、法人からもいろいろと情報を皆様にお知らせします。何れにせよ井出新学長の下に、大学運営に関する論議はいくらあっても好ましいことです。ただ決まったらそれに向かって一致団結して実行していただくことをお願いいたします。

いろいろと申し上げましたが、少し整理をして、しばらくしたら大学広報で考えをお知らせしたいと思えます。大学制度上、法人の常務理事会や理事会ですとか、さらには評議員会ですとかきちんとした決まりがありますので、そちらを通して皆様にお知らせできることと、その手前で、こういう考え方はどうだろうと投げかけるという様なこととはっきり分けながら、可及的、法人という組織が皆様の身近になれるようにやっていきたいと思えます。これは私の考え方でして、新学長がそれは迷惑と言うかもしれません。

ですから、これはこれからすり合わせをしながらやらなければいけないという、大変大事なところです。東京歯科大学は、リーディングカレッジを目指しながら、皆様の生活を守っていきたくと思えます。

以上で、本日のご挨拶とさせていただきます。宜しくお願い致します。どうもありがとうございました。



学長就任のご挨拶

井出 吉信

このたび7月1日付をもちまして、東京歯科大学学長を拝命いたしました。

これまで、教務部長を始め、学監、学務担当副学長として、学生教育におよそ13年間携わってまいりました。この経験を少しでも生かすことができればと考えます。

東京歯科大学は、明治23年に創立された我が国最古の歯科医学の教育機関であります。常に最先端の教育・研究・診療を学生と国民に与え、世界をリードする歯科大学となるべく、日頃より教職員が一丸となって精進してまいりました。本学の建学の精神は、初代校長である血脇守之助先生が説いた「歯科医師たる前に人間たれ」という教えにあり、人間性豊かな国民歯科医療を担うリーダーとなる人材を育成することが、大学の使命であると考えます。

現在の医学・歯学教育は、その在り方が問われており、殊に歯科医学教育においては「全人的医療、多様化した医療への対応、基本的臨床能力の向上、医療事故抑止」などを目指して改革が進められております。こうした現況のなか、東京歯科大学では「如何に独自性を有する優秀な学生を確保し、その学生の勉学意欲を喚起するような環境や独自の魅力あるプログラムを構築し、国民から信頼される優秀な歯科医師を世に送り出すこと」を常に念頭に置いております。この教育方針は、徐々に実を結んでおり、歯科医師国家試験合格率の上昇としても顕れております。また、一律な対面授業だけではなく、個々の学生にあったきめ細やかな教育手法を構築し、高い能力を備えた学生の確保がなされていることも本学の特色のひとつです。さらに、海外の姉妹校で数週間研修を行う、「Elective Study 研修制度」を実施し、国際性豊かでグローバルな観点に立った歯科医師の育成にも取り組んでおります。

今春は、東日本大震災の影響により、例年4月に実施していた「新入生学外セミナー」を6月に延期いたしました。私はこれまでに、このセミナーに13回参加をしておりますが、今回、懇親の場において、新入生から『本学に入学したことを大変誇りに思っています。』という大変力強いコメントを聞き、感激いたしました。こうした「愛校心」を学生のみならず、教職員や患者さんからも言っていただけるような環境作りを心がけて参りたいと存じます。

お陰様で本学は、入学者数の定員を例年、充足しておりますが、社会情勢を勘案すると、先行き不透明な点多々あります。そこで、現状に胡坐をかくことなく、金子 譲法人理事長と表裏一体となり、今後の大学運営に尽くして参る所存でございます。

平成24年度より東京・水道橋にキャンパスを移転いたします。古くから文教地域である水道橋一帯は、街全体がキャンパスとなっているといっても過言ではない程、他大学や他研究施設、文化施設等が集まっており、これまで以上に多くの交流や情報に触れることが可能となります。このようなロケーションを学びの場として、次世代の歯科医師となるべく高い志を持った学生を輩出できることを願っております。

さらに、教員・職員の皆様が東京歯科大学に勤めてよかったと、誇れる職場を構築し、また、患者さんにとりまして東京歯科大学で診療を受けてよかったと思っただけの病院にする様まい進する所存でございます。

大学は学長一人で構築できる訳ではございません。皆様一人一人が発言をしながら、行動を起こしながら、より良い大学を構築して行きたいと思っております。ご協力をよろしくお願い申し上げます。



理事長退任のご挨拶

熱田 俊之助

このたび、5月31日付をもちまして、理事会のご了承をいただき理事長を退任いたしました。

平成20年8月、計らずも理事長の大役を仰せつかり、就任中約3年間役員及び教職員をはじめ、同窓会や父兄会など多くの関係者の皆様には、温かいご支援、ご指導をいただきましたことを心より厚く御礼申し上げます

昨年、本学は、創立120周年を迎え様々な記念行事を開催し、記念式典・祝賀会では、三笠宮同妃両殿下のご来臨を賜り、全ての行事を成功裏に終了することができました。

大学の命運をかけた水道橋移転計画も本年2月、さいかち坂校舎予定地において起工式を挙行し、7月には新館校舎も着工し、無事に建築のスタートを切ることができました。

移転事業も軌道に乗り、創立120周年を無事に終えることができました。全てをやり遂げたとは考えておりませんが、理事長就任の際、井上 裕元理事長のご遺志を継承するという大きな目的は果たせたと実感しております。

近年、少子高齢化や経済不況による厳しい社会環境の中、大きく変貌、拡充する医療分野においては、これらに対応できる人材の育成が強く求められております。今後も、本学の歴史と伝統を継承しながら、金子新理事長の下で、歯科医療の将来を担う人材の育成をすすめていただきたいと思います。

最後になりましたが、皆様方にはお世話になりました御礼と今後のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げますと共に、東京歯科大学の更なる発展を祈念いたしまして退任の挨拶といたします。

■副学長就任のご挨拶



石井 拓男

このたび、東京歯科大学の重席である副学長を拝命致しました。井出吉信前副学長が、学長に就任されたことからその後任を命じられたものです。先任の副学長には柳澤孝彰教授がそのまま就任されておられますので、柳澤副学長にアドバイスを頂きながら共に井出学長を補佐してまいる所存です。

現在、東京歯科大学の課題は水道橋移転の円滑な実施に全てかかっているものと思います。周知のように、歯科大学の置かれている状況は極めて厳しいものであります。このことは文部科学省が、歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議フォローアップ小委員会による実地調査の結果を公表していることから明かです。幸いにも、東京歯科大学は実地調査の対象校とはされませんでした。本校の、国家試験や入学試験の実態が良好なものと判断されたことによります。歯科医師国家試験は、各大学がまなじりを上げてその対策に乗り出してきました。中でも国立大学の変貌は瞠目すべきものと思います。その成果は、平成23年春の国家試験結果にも明かです。一方、各大学の入学定員割れへの対応はなかなか容易ではないようです。その中で、唯一東京歯科大学のみが例外的に応募者増加となりました。水道橋移転によって、東京歯科大学のadvantageが揺らぐこと無くさらに上昇することが望まれます。

私は、平成22年6月1日に移転部統轄部長を拝命致しました。そのため、これまでも教務関係や病院等の移転に係るほぼ全ての部門に携わって参りました。これからは、副学長としてこれまで以上に職務に邁進致す所存であります。どうぞ、激励はともかく叱咤の程よろしくお願い申し上げます。

■法人役員の選任

平成23年6月21日(火)開催の第672回理事会並びに第227回評議員会にて、平成23年7月1日からの法人役員新体制が下記の通り決定した。

記

金子 讓	理事長(総括)
井出 吉信	常務理事 (学務・建設・人事担当)
熱田 俊之助	常務理事(校友担当)
石井 拓男	常務理事(財務・庶務担当)
鹿島 隆雄	理事
水野 嘉夫	理事
安藤 暢敏	理事
野崎 弘	理事
柳澤 孝彰	理事
大山 萬夫	監事
松尾 邦弘	監事

■役員一覧



金子 讓 理事長



井出 吉信 常務理事



熱田俊之助 常務理事



石井 拓男 常務理事



鹿島 隆雄 理事



水野 嘉夫 理事



安藤 暢敏 理事



野崎 弘 理事



柳澤 孝彰 理事



大山 萬夫 監事



松尾 邦弘 監事

金子理事長の略歴



かね こ ぬづる
金 子 讓
昭和14年2月8日生

- 昭和39年 3月 東京歯科大学卒業
- 昭和39年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科入学 (口腔外科学専攻)
- 昭和39年 5月 第35回歯科医師国家試験合格
- 昭和41年 3月 歯科医籍登録 第53719号
- 昭和43年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了 学位受領 (歯学博士)
- 昭和43年 4月 東京歯科大学助手 歯科麻酔学講座
- 昭和43年12月 東京大学医学部麻酔学教室に内地留学
- 昭和45年 4月 東京歯科大学講師 歯科麻酔学講座
- 昭和45年 7月 神奈川県立こども医療センター非常勤医 麻酔科
- 昭和48年 4月 東京歯科大学助教授 歯科麻酔学講座
- 昭和50年 5月 日本歯科麻酔学会認定医取得
- 昭和56年 3月 学命により海外研修
- 昭和56年 4月 フロリダ大学歯学部客員助教授

- 昭和61年 4月 山形大学医学部非常勤講師
- 昭和62年 7月 東京歯科大学教授 歯科麻酔学講座
- 平成元年 6月 東京歯科大学 歯科麻酔科部長
- 平成 3年 1月 東京歯科大学 歯科麻酔学講座主任
- 平成 6年 5月 日本歯科麻酔学会指導医取得
- 平成 7年 6月 東京歯科大学大学院 歯学研究科長
- 平成10年 4月 慶應義塾大学医学部非常勤講師 (麻酔科)
- 平成10年 2月 学校法人東京歯科大学 評議員
- 平成10年 6月 東京歯科大学水道橋病院長
- 平成11年 7月 学校法人東京歯科大学 法人主事
- 平成14年 3月 東京歯科大学 副学長
- 平成15年 2月 日本障害者歯科学会認定医取得
- 平成15年 2月 日本障害者歯科学会指導医取得
- 平成16年 6月 東京歯科大学 学長
- 学校法人東京歯科大学理事・常務理事 (学務・人事担当)
- 平成18年10月 国際歯科麻酔学連合会長
- 平成19年 6月 東京歯科大学 学長
- 学校法人東京歯科大学理事・常務理事 (学務・人事担当)
- 平成20年 4月 口腔科学研究センター所長
- 平成20年 6月 学校法人東京歯科大学 理事長代行 学校法人東京歯科大学 常務理事 (総括・学務・人事担当)
- 平成20年 8月 学校法人東京歯科大学 常務理事 (学務及び人事担当)
- 平成22年 6月 東京歯科大学 学長 学校法人東京歯科大学理事・常務理事 (学務・人事・財務担当)
- 平成23年 6月 学校法人東京歯科大学 理事長

○新役員の略歴

松尾監事の略歴



まつおくにひろ
松尾邦弘
昭和17年9月13日生

昭和41年 3月 東京大学法学部卒業
昭和43年 4月 東京地方検察庁検事

昭和50年 9月 研究派遣（米国）
昭和55年 6月 在ドイツ日本国大使館一等書記官、参事官
平成元年 9月 法務省刑事局刑事課長
平成 4年 9月 法務大臣官房人事課長
平成 8年 1月 松山地方検察庁検事正
平成 8年12月 東京地方検察庁次席検事
平成10年 4月 最高検察庁検事
平成10年 6月 法務省刑事局長
平成11年12月 法務事務次官
平成14年 1月 最高検察庁次長検事
平成15年 9月 東京高等検察庁検事長
平成16年 6月 検事総長
平成18年 6月 同辞職
平成18年 9月 弁護士登録（第一東京弁護士会所属）
平成18年11月 松尾邦弘法律事務所開設
平成23年 6月 学校法人東京歯科大学監事

石井常務理事の略歴



いしいたくお
石井拓男
昭和23年1月21日生

昭和47年 3月 愛知学院大学歯学部卒業
昭和47年 5月 第51回歯科医師国家試験合格
歯科医籍登録（第61376号）
昭和47年 5月 愛知学院大学歯学部助手（口腔衛生学教室）

昭和53年10月 愛知学院大学歯学部講師
昭和55年12月 歯学博士
昭和63年11月 愛知学院大学歯学部助教授
平成 2年 2月 厚生省保険局医療課医療指導監察室
医療指導監査官
平成 3年 4月 厚生省保険局医療課課長補佐
平成 5年 1月 厚生省保険局歯科医療管理官
平成 7年 6月 厚生省健康政策局歯科衛生課課長
平成 9年 7月 厚生省健康政策局歯科保健課課長
平成11年 9月 東京歯科大学社会歯科学研究室教授
平成16年 6月 東京歯科大学千葉病院長
平成19年 4月 社会保険診療報酬支払基金歯科専門役
日本歯科総合研究機構研究部長
平成22年 6月 東京歯科大学歯科衛生士専門学校長
平成23年 7月 東京歯科大学副学長
学校法人東京歯科大学理事・
常務理事（財務・庶務担当）

柳澤理事の略歴



やなぎさわたかあき
柳澤孝彰
昭和21年6月12日生

昭和46年 3月 東京歯科大学卒業
昭和46年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科入学
（口腔病理学専攻）
昭和46年 5月 第49回歯科医師国家試験合格

昭和46年 5月 歯科医籍登録（第59179号）
昭和50年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
学位受領（歯学博士 東京歯科大学）
昭和50年 4月 東京歯科大学病理学第一講座助手
昭和51年 4月 東京歯科大学病理学第一講座講師
昭和54年 4月 アメリカ合衆国国立歯科衛生研究所
客員研究員
昭和56年11月 東京歯科大学病理学第一講座助教授
平成 2年 4月 東京歯科大学歯科衛生士専門学校正講師（兼任）
平成 3年 4月 東京歯科大学病理学講座教授
平成 5年 4月 東京歯科大学解剖学第二講座主任教授
平成11年 7月 文部省高等教育局大学設置・学校法人審議会
専門委員大学設置委員会委員
平成15年 1月 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
平成19年 6月 東京歯科大学大学院研究科長
平成22年 6月 東京歯科大学副学長
平成23年 7月 学校法人東京歯科大学理事

■准教授就任のご挨拶



摂食・嚥下リハビリ テーション・ 地域歯科診療支援科

石田 瞭

平成23年6月1日より千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科の准教授に就任させていただいた石田 瞭と申します。当科は平成20年の開設以来、地域において歯科に関わるべき摂食・嚥下障害リハビリテーションの在り方を模索して参りました。これまで当科が関わってきた患者様は、地域に在住する中途障害者や要介護高齢者の方々、口腔がん術後の方々、心身障害児・者の方々为主でありました。いずれも、摂食・嚥下障害が問題となりやすいにも関わらず、対応し得る職種が限定的であるのが実情でした。当科開設からの3年間は、このような現状を認識する

ことで精一杯でしたが、今後は患者様のニーズに、よりお応えするべく、診療を充足して参りたいと考えております。

また、本分野は歯科診療の新たな一分野として発展させることが必須です。歯科医師国家試験からの出題が増加していることも含め、歯科学生教育において摂食・嚥下リハビリテーションの重要性を理解してもらい、従事者の増大に貢献できるよう、努力いたします。

留意すべきなのは、本分野がまだ発展途上であることです。ナラティブな側面があることは特徴であります。より効果的なりハビリテーション提供のために、研究を行う姿勢を常に維持したいと考えております。

本分野は、地域単位での発展が重要です。地域の歯科医療従事者の方々には、積極的にリハビリに参加していただけるよう、研修体制を整備するとともに、サポート体制も充実させ、良好な医療連携体制を構築したいと考えております。

今後とも本学の先生方からの御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

学内ニュース

■名誉教授の推薦

平成23年6月14日(火)の第587回全体教授会において、本学名誉教授規程に基づき、本年6月30日付で退任される金子 譲学長を名誉教授に推薦することが了承された。これを受け、平成23年6月21日(火)開催の第672回理事会において平成23年7月1日付の推薦が承認された。

■第291回東京歯科大学学会例会開催

平成23年6月4日(土)千葉校舎において、第291回東京歯科大学学会例会が開催された。口演28題は第1・2教室で、示説8題は第2ラウンジを会場として各々発表された。午後1時から1時30分まで第1教室において、微生物学講座の国分栄仁助教による学長奨励研究賞受賞講演が行われ、午後1時30分から4時10分まで同じく第1教室において5教授による以下の特別講演が行われた。

1. 「麻酔関連偶発症例調査から見た本邦における手術・麻酔の安全性」

小坂橋俊哉 教授（東京歯科大学市川総合病院麻酔科）

2. 「口腔がんを早期に発見するために 歯科地域連携と“病理の役割”」

田中陽一 教授（東京歯科大学市川総合病院臨床検査科）

3. 「東京歯科大学歯科医学教育開発センターの活動 GPへの取り組みを中心として」

河田英司 教授（東京歯科大学歯科理工学講座、歯科医学教育開発センター）

4. 「インプラント治療の現状と将来展望」

矢島安朝 教授（東京歯科大学口腔インプラント学講座）

5. 「東京歯科大学千葉病院味覚異常外来における現状」

田崎雅和 教授（東京歯科大学生理学講座）

また、13商社の参加による商品展示が第1ラウンジで行われた。

■平成23年度 東京歯科大学教授懇親会開催

平成23年度東京歯科大学教授懇親会は、6月14日(火)午後7時より、ホテルニューオータニ幕張「鶴西の間」において開催された。

今年度の懇親会は、河田英司教務部長の司会により進められ、まず6月1日付けで改選となった法人役員との紹介が行われた。柳澤孝彰副学長からの開会挨拶の後、金子 讓理事長からは理事長就任と学長退任の挨拶があり、これまで大学を支えてこられた功労をねぎらい、教授一同の感謝の意を込めて花束が贈られた。続いて、前理事長である熱田俊之助常務理事から理事長退任の挨拶があり、創立120周年記念事業を推進してこられた功績を讃え、教授一同からの感謝の意を込めて花束が贈られた。次に、5月31日付で退任された岡村泰孝前監事の後任である松尾邦弘監事より就任の挨拶があった。

乾杯の挨拶は、同窓会長でもある大山萬夫監事により行われ、教授懇親会が開宴となった。

本会は、法人役員・大学幹部と本学の全教授が一堂に会して懇親をはかることにより、東京歯科大学としての絆を強め、大学の発展に寄与するこ



花束を受け取る金子理事長：平成23年6月14日(火)、ホテルニューオータニ幕張



盛会を祝し乾杯する出席者：平成23年6月14日(火)、ホテルニューオータニ幕張

とを目的としている。会は、終始和やかな雰囲気で行われ、法人役員、教授間の交流、懇親を深めながら、午後8時30分に戸達也法人主事による閉会の挨拶で中締めとなり、本学の今後更なる発展を祈念しつつ終了した。

■平成23年度実験動物供養祭

平成23年6月17日(金)午前10時40分より、千葉校舎基礎棟1階の第2ラウンジにおいて、平成23年度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、廣徳院住職の読経に始まり、井出吉信副学長(現学長)が祭文を奉読された後、歯科医学の教育・研究に生命を捧げた動物諸霊に対し哀悼と感謝の意を込め、教職員、大学院生、臨床研修歯科医、第3学年学生全員が順次焼香を行い、滞りなく終了した。



祭文を奉読する井出副学長(現学長)：平成23年6月17日(金)、千葉校舎基礎棟第2ラウンジ

■父兄会定時総会・修学指導方針説明会開催

平成23年6月18日(土)午後12時40分より、千葉校舎講堂において、平成23年度父兄会定時総会が開催された。梅雨空の中、総会には約600名の保護者が出席された。

総会は、佐藤浩一副会長の開会の辞で始まり、本年4月に新会長に就任した鳩貝尚志父兄会会長から新任の挨拶と父兄会運営の方針などが述べられた。続いて金子 讓名誉会長(学長(現理事長))から大学の現況等の説明と挨拶を頂いた後、本総会の議長に第6学年保護者の坂田康一氏が選出され、議事に移った。

議案としては平成22年度会計各種収支決算、平成23年度父兄会事業計画、会計各種収支予算案、貸与共済基金の大学への移管、傷害共済基金緊急災害対策準備金の支出(案)などが審議され、

いずれも提案どおり可決された。引き続き父兄会役員任期満了に伴う改選の審議に移り、慣例に従って選考委員会が設置され、同委員会の推薦を受けて下記のとおり平成23年度父兄会役員が選任された。(業務分担はつぎのとおり)

会 長：鳩貝尚志
副 会 長：佐藤浩一、荒川幸雄、秋草正美
常務理事（庶務）：小林一公、寺本信三
常務理事（会計）：齋藤 守、小山 亨
常務理事（貸与）：中村 隆
常務理事（傷害）：森田正純
常務理事（広報）：宮吉久美、齋藤 正、川崎輝子、
橋本東児
以上 10 名
理 事：山本明彦、荻原俊美、高崎一郎、
坂入道子、石井俊昭、
福田紳一、中川雅晴、石 和久、
松崎英雄、小林容子、
原島 晃、丹沢朝彦、村上雅一、
瀧上恵美子、相浦勇二
以上 15 名
監 事：東郷幹夫、鈴木千枝子
以上 2 名

総会当日は、午前11時30分より厚生棟1階第一食堂において昼食会を兼ねた「全教授および修学指導関係者と保護者との懇談会」が和やかな雰囲気の中で行われた。

また、父兄会定時総会終了後は、午後2時から保護者を対象にした大学主催による修学指導方針説明会が開催され、井出吉信副学長(現学長)から学生指導の基本方針と水道橋校舎移転に関する事



会長就任挨拶および今年度の運営方針を説明される
鳩貝父兄会長：平成23年6月18日(土)、千葉校舎講堂

項、河田英司教務部長から「勉学に関する指導方針」、佐藤 亨学生部長から「学生生活に関する指導方針」についてそれぞれの立場から懇切な説明が行われた。次いで午後3時30分からは各学年の学年主任あるいはクラス主任が学年別に個々の現状、修学上の注意事項に関する詳細な説明が行われた。さらに説明終了後、出席保護者と学年主任・クラス主任との個別面談が実施された。

■第328回・第329回大学院セミナー 「インプラント」(第3回・第4回)の開催

本学大学院では、学生の意見を尊重したセミナーを行っており、本年度は「インプラントを通して歯科医学研究の未来を考える」をテーマにした6回の大学院セミナーが計画されている。平成23年6月9日(木)(午後5時40分より千葉校舎第2教室)および23日(木)(午後5時40分より千葉校舎教養棟第6・7教室)の両日は、その3回目(第328回)と4回目(第329回)として「インプラント基礎研究から歯科全体の研究テーマを評価、検討する」と題した講演が、臨床検査病理学講座の松坂賢一准教授ならびに國分克寿助教により行われた。松坂准教授は、まずインプラントの病理学的考え方について話され、次いで松坂准教授が研究されてきた骨再生研究、インプラントの表面形状改質研究について発表された。松坂准教授はオランダに留学した時の経験を踏まえ、研究の面白さを説いた。また、國分助教は、学位論文テーマである人工タンパク質を利用したチタンインプラントの高機能化について分かりやすく解説された後、学位論文がアクセプトされるまでの流れを発表された。講演後には、研究への取り組みや実験の方略などについて多くの質問がなされ、これから自分たちがまとめる学位論文のために大いに参考になったようである。

■節電対策に関する説明会開催

東日本大震災の影響により、今夏の電力需給バランスが悪化する可能性があるため、千葉校舎では、各部署に配置された節電実施責任者を対象として、平成23年6月24日(金)午後6時より第2教室において節電対策に関する説明会が開催された。

説明会は加藤靖明大学事務部長により進められ、クールビズの徹底や冷房中の室温設定の順

守、個別設置空調機の使用禁止、パソコンの節電などの具体策について説明があり、集まった節電実施責任者へ推進の協力を依頼した。



説明する加藤大学事務部長：平成23年6月24日（金）、千葉校舎第2教室

■平成23年度市川総合病院緩和ケア研修会開催

市川総合病院は平成20年2月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている。がん診療連携拠点病院には、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を毎年開催することが義務付けられていることから、昨年に続き3回目の研修会を平成23年6月19日（日）・26日（日）の両日に開催された。

がん診療連携拠点病院が行う緩和ケア研修会は、院内だけではなく地域の医療従事者も対象にすることから、学外の勤務医・開業医に対しても県や医師会・歯科医師会を通して広く募集を呼び掛け実施された。

参加者は学内外から医師12名、歯科医師11名、薬剤師2名、看護師4名、歯科衛生士1名の合計30名と、参加者に対して9名のファシリテーターを迎えての研修会となった。

研修会の内容は、講義とロールプレイ、ワークショップで構成されており、講義では「緩和ケア概論」や「がん性疼痛」、「呼吸困難」、「消化器症状」、「精神症状（抑うつ、せん妄）」、「コミュニケーション」について解説され、「疼痛事例検討」や「オピオイドを処方するとき」、「コミュニケーション」、「地域連携」ではグループ討議やロールプレイが熱心に行われた。緩和医療は患者やその家族の辛さに焦点が当てられているが、がん診療を行っている医療者のケアも重要な要素である。今回のような研修会は、日常のがん診療、特に疼痛緩和などで困っている医師に対しては極めて有効であることから、今後もがん診療連携拠点病院

としての役割を担って行きたいと考えている。



グループ演習風景：平成23年6月19日（日）、市川総合病院2階講堂



講義風景：平成23年6月26日（日）、市川総合病院2階講堂

■第104回歯科医学教育セミナー開催

平成23年6月27日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第104回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「滋賀医科大学における学生教育」と題し、滋賀医科大学医学部家庭医療学講座の三ツ浪健一教授をお招きし、講演を伺った。

はじめに、滋賀医科大学の沿革や現状について簡単な紹介があり、続いて、教育方略-SPICES Model-に基づく独自の教育手法について説明された。「学生中心」「問題指向」に関しては、基礎医学教育の部分において、早期から少人数での能動学習を推進し、同じ教員の下でチュートリアル教育を行っているとのことであった。「統合」という点では、カリキュラム上、評価が曖昧になってしまうのを防ぐために、講義はある程度系統的に実施しているとのことであった。「地域基盤」という点では、大学が地域の診療所に協力を仰ぎ、診療所を臨床実習場所として提供してもらい、地域と連携した教育体制を取っている。これに関しては、学生側からも、診療所側からも満足度の高いものとなっているとのことであった。さらに、そ

れにとどまらず、診療所医師から、在宅ケアを受けている患者さんを紹介してもらい学生が訪問する一般市民参加型の授業を行っているとのことであった。「選択」という点においては、早期体験学習や自主研修という形で、様々な施設の中から、学生が希望するものを選択して体験、学習するカリキュラムが組まれていた。一方で、教員に対しては、授業評価に加えて、教育での貢献を評価してもらえるような体制もあり、学生教育に力を注げる環境が整っているようであった。

本学が検討している学外臨床実習制度を先だって実践している点や、国家試験合格に向けたハイリスク学生へのアドバイザー制度、補講、自主学習の推奨など、他にも様々な興味深い取組が行われており、本学にとって大変参考になるセミナーとなった。



講演される三ツ浪教授：平成23年6月27日（月）、千葉校舎第2教室

■平成23年度第2回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年6月27日（月）午後5時30分より、水道橋校舎2階血脇記念ホールにおいて、平成23年度第2回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「医療安全から見た歯科診療における院内感染予防 - CDCガイドラインを中心に -」と題し、の池田正一臨床教授（水道橋病院障害者歯科）による講演が行われた。

歯科医療においては、観血処置と非観血処置が同じチェアで行われるという特異性があることを踏まえ、感染予防の必要性和、標準予防策（スタンダード・プリコーションズ）を確立し実践することの重要性が示された。また、①患者から歯科医療従事者、②歯科医療従事者から患者、③患者から患者、④歯科医療従事者から歯科医療従事者、という4つの感染様式について海外で報告さ

れている事例を紹介し、院内の感染予防システムを構築する上で、環境の整備、スタッフへの教育等が重要であると説明された。具体的には、臨床現場で使用頻度の高いマスク、グローブ、ゴーグルなどの使用についての感染予防上の留意点や、診療室において感染予防に繋がる可能性のあるポイントについて解説された。また、タービン等での切削による唾液飛散とその対応策については、口腔外バキュームやラバーダム防湿の有効性が示された。特にラバーダム防湿は、患者・医療従事者双方における感染予防という点で優れているが、アメリカに比べ日本では使用頻度が低く、歯科医療における感染予防の認識の相違を指摘された。

講演後は活発な質疑が行われ、日々の臨床において感染予防への関心の高さがうかがえた。本研修会を通して、今後より一層の意識向上につながるものと思われた。



講演される池田臨床教授：平成23年6月27日（月）、水道橋校舎2階血脇記念ホール

■平成23年度新入生学外セミナー実施

今回で13回目を迎える平成23年度新入生学外セミナーが、6月29日（水）から7月1日（金）までの2泊3日の日程で、木更津市の「かずさアカデミアパーク」で行われた。

本セミナーは「歯科大学1年生としての学習の心構え」、「How to learn, how to study」、「新入生同志の親睦」の3点を目的として、毎年4月の中旬に開催されていたが東日本大震災の影響により延期されており、時期をずらしての実施となった。

新入生は6月29日（水）午前9時30分に大学を出発、10時30分から開講式、10時50分から平田創一郎教務副部長からコンセンサスゲームの概要説明があり、各グループごとにゲームの課題に取り組ん

だ。昼食後、午後1時50分より田中和夫千葉西警察署署長から実際にあった事件・事例の紹介と、防犯対策について、2時40分からは、橋本正次教養科目協議会幹事から「問題点の解決法、レポートのまとめ方」についての講演が行われた。午後3時50分から1回目のグループ討議に入った。グループ討議は、新生を12のグループに分け、与えられたテーマに基づきディベートが行われた。午後6時30分からは、テーブルマナー講習会を兼ねた夕食会があり、国賓やVIPの接遇対応を担当されているオークラアカデミアパークホテル総支配人補佐の新井正芳講師からフォーク、ナイフの使い方や食事のエチケットなどの細かなマナーについて説明を受けた。また、テーブルに同席した先生方やクラスメイトと食事を楽しみながら親睦を深めた。

2日目の6月30日(木)は、午前9時から2回目のグループ討議を行い、11時10分からは「医療人としての身だしなみとマナー」について各企業でビジネスマナー等の教育に携わっている小塩京子先生の講演を拝聴した。昼食後に3回目のグルー

プ討議を行い、グループ発表に向けた資料収集や発表の内容が話し合われた。午後4時30分から大久保 剛千葉病院内科教授による「身体と心の健康管理」、本学卒業生で同窓会役員の藤岡雅嗣先生から「臨床医から新生へのメッセージ(歯科医療の現場から)」と題した三つの講演を伺った。その後、午後6時30分から懇親会が行われ、第一学年副主任山崎貴希助教による校歌の練習、ビンゴゲームを通じて盛り上がり、先生方や友人と親睦を深めた。懇親会でリフレッシュした新生



グループ討議で意見を出し合う新生：平成23年6月29日(水)、木更津・かずさアカデミアパーク



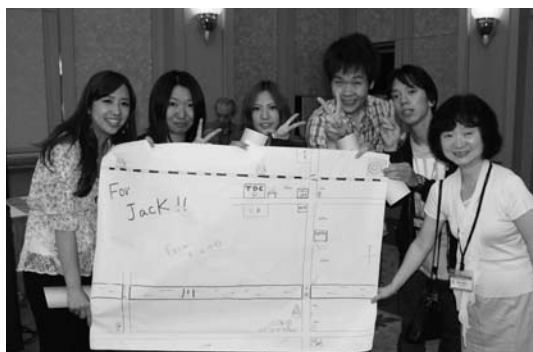
セミナー講演に耳を傾ける新生：平成23年6月29日(水)、木更津・かずさアカデミアパーク



和やかな雰囲気の中、懇親会で盛り上がる新生：平成23年6月30日(木)、木更津・かずさアカデミアパーク



テーブルマナーでの席で、井出副学長(現学長)と懇談する新生：平成23年6月29日(水)、木更津・かずさアカデミアパーク



コンセンサスゲームで入賞したグループと茂木悦子准教授：平成23年6月30日(木)、木更津・かずさアカデミアパーク

生たちは夜遅くまで、翌日のグループ発表に向け準備に取り組む姿が見られた。

最終日の7月1日(金)は、午前9時から3会場に分かれて「公開ディベート」が行われた。各会場において「肯定派」と「否定派」に分かれ熱い討論をくり広げていた。また、質疑応答も行われ、充実した「公開ディベート」となった。

最後に河田英司教務部長による閉講の辞により、3日間に亘るセミナーを終了した。

今年も帰路に市川総合病院に立ち寄り病院見学が実施された。オーラルメディスン・口腔外科学講座の片倉 朗教授から病院の概要説明を受けた後、同講座のスタッフの先導により病院施設を見学して、新入生学外セミナー並びに市川総合病院見学の全日程を終了した。



医療人としての身だしなみとマナーについて講演される小塩先生：平成23年6月30日(木)、木更津・かずさアカデミアパーク



ディベートで相手に自分の考えを懸命に伝える新入生：平成23年7月1日(金)木更津・かずさアカデミアパーク

■【テーマA】大学教育推進プログラム公開フォーラム開催

平成23年7月2日(土)午後1時30分より、水道橋校舎13階において、大学教育推進プログラム公開フォーラムが開催された。本フォーラムは、文部科学省の平成21年度大学教育・学生支援推

進事業【テーマA】大学教育推進プログラムで選定された本学の取組「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成 ～高い倫理観とコミュニケーション能力に基づく総合診療計画立案能力の向上～」の進捗状況を広く公開するものである。本取組は「コミュニケーション教育」と「医療倫理教育」をさらに発展させ、「総合診療計画立案能力養成プログラム委員会」の発足と「ペイシェント・コミュニティ (P-Com)」の設立を軸としており、これらにより、国民が求める高い人間力と行動特性を持った医療人を養成しようとするものである。

まずはじめに、特別講演に群馬大学医学部医療情報部の酒巻哲夫教授をお招きし、「学生、患者、市民の交わる医学教育から患者中心の医療へ」と題した講演を伺った。酒巻教授は、群馬大学医学部で実施されている取り組みで「医療の仕組みと情報」と「医療の質と安全」という2つの講義カリキュラムについて紹介され、「患者中心の医療」を実践するためには、患者さんや市民が積極的に医学教育に入っていける環境を作り上げて行くことからはじまると説明された。

次に一般講演として社会歯科学研究室の平田創一郎准教授より「本取組の概要について」、臨床検査病理学講座の村上 聡助教とP-comメンバーの山田幸子氏、後藤隆仁氏より「ペイシェント・コミュニティ (P-com) の構築と活動状況について」、総合診療科の高橋俊之准教授より「360度評価の導入について」と題した講演を行い、本取組の進捗状況を報告した。P-comメンバーの山田氏、後藤氏からは実際にP-comの活動を通して感じた事、患者さんの立場からの意見、今後の学生教育に期待するところについてお話をいただいた。



総合討論風景：平成23年7月2日(土)、水道橋校舎13階ルームA

当日は、学外関係者も合わせて96名もの参加者が集まり、最後の総合討論としてのフォーラムディスカッションでは、本取組についての意見交換が熱心に交わされ、午後5時すぎに盛会の内に終了した。

■臨床実習を中心としたカリキュラム研修ワークショップ開催

平成23年7月3日(日)、水道橋校舎13階において、臨床実習を中心としたカリキュラム研修ワークショップ(第28回カリキュラム研修ワークショップ・第1回学外臨床実習に関するワークショップ)が開催された。今後は様々な実習形態が求められるなかで、水道橋移転に伴い、近隣歯科医院への実習参加が可能になることもある。そこで、同窓の先生方にご協力いただき、大学病院とは異なる各地域の診療所において、臨床の最前線における「患者中心の歯科医療」を臨床実習へ導入することを目指し、大学と同窓が一体となり、新たな実習カリキュラムを作成するとともに、本学の教育目標およびカリキュラムについての理解を深めることを目的とし開催された。

今回はご多忙の中、14名の同窓の先生方にご賛同いただき、本学からのスタッフおよび参加者と合わせ32名が集まり、学外臨床実習で出来ることやカリキュラム・プランニング、360度評価に関する5つのセッション、3つのレクチャーからなるプログラムが実施された。3グループに分かれ、限られた時間内にグループ討議、発表を行う凝縮された内容のワークショップに、参加した同窓の受講者からは、「内容は少し難しかったが、今後もこういった取り組みを続けていき、教育者としてのレベルを標準化できれば、歯科医院にお



総合討論風景：平成23年7月3日(日)、水道橋校舎13階ルームA

いての臨床実習も可能になり、学生は学部時代から様々な経験が出来ることになるので、こんなに有意義なことはない」「同窓の一人として後進の指導にあたりたい気持ちが一層強くなりました」等の感想が挙げられた。本ワークショップは今後も継続して実施することにより教育体制の改革と教育指導のより一層の充実を目指している。

■水道橋新館校舎(仮称)敷地地鎮祭挙行

平成23年7月6日(水)午前11時より、水道橋新館校舎(仮称)建設予定地にて地鎮祭が厳粛に執り行われた。当日は好天に恵まれ、金子 譲理事長、井出吉信学長以下大学関係者11名、株式会社日本設計関係者9名、清水建設株式会社関係者11名の参列の下、三崎稲荷神社宮司による神事を執り行い、新館校舎(仮称)建設にあたっての工事の安全が祈願された。



玉串を捧げる金子理事長：平成23年7月6日(水)、新館校舎(仮称)建設予定地

■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが7月10日(日)に午後1時より、7月30日(土)は午後2時より水道橋校舎2階血協記念ホールで開催された。今年の入試ガイダンスは移転に伴い、全て水道橋で行うことになっている。

ガイダンスでは、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、学生生活等、卒業進路状況、平成24年度入学試験の概要等について説明があった。さらに、10日のガイダンスでは、2名の在学生から、自身の大学生活について説明があり、学生目線の語り口で高校生にも分かりやすい内容で大変好評であった。

また、毎回異なる模擬授業が実施され、10日には衛生学講座の杉原直樹准教授による「おかしなお菓子なむし歯の話」、30日にはガイダンス冒頭で、井出吉信学長による「これからの歯科医療」、口腔健康臨床科学講座の山下秀一郎教授による、「かみ合わせの回復:補綴治療」と題した講演、授業が行われた。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。両日合わせて240名もの参加があり、大盛況なガイダンスとなった。

次回のガイダンスは、8月27日(土)に水道橋校舎で実施する予定である。



在学生の説明を聞く参加者：平成23年7月10日(日)、水道橋校舎2階血脇記念ホール

■平成23年度水道橋病院臨床研修歯科医OSCE開催

平成23年7月16日(土)午後2時より、水道橋病院において、平成23年度臨床研修歯科医を対象としたOSCE(客観的臨床能力試験)が開催された。今回の受験者は、水道橋病院の臨床研修歯科医14名の他、東京都保健医療公社豊島病院および東京都健康長寿医療センターからそれぞれ1名参加があり、合計16名であった。

院内に4か所のステーションを設置し、治療方針の説明を1課題と技能系課題を3課題の計4課題を実施した。受験者は臨床研修を開始して3か月経過したところで、これまでの研修の成果と知識をもとに各課題に取り組んだ。受験者は課題ごとに評価者ならびに模擬患者から評価を受け、さらに各課題終了時には、評価者ならびに模擬患者からのフィードバックを受けた。

後日、水道橋病院所属の臨床研修歯科医は、今年度OSCE実行委員長の笠原清弘講師より評価結果をもとに総評を受け、古澤成博水道橋病院研修

管理委員会委員長より、研修期間も中盤に入りますが、OSCEを契機に尚一層気を引き締めて研修に取り組むように、とのコメントをいただいた。

水道橋病院では、今後も様々な見直しを行いながら継続的にOSCEを開催し、歯科医師臨床研修のさらなる充実を図りたいと考えている。



課題に取り組む受験者：平成23年7月16日(土)、水道橋病院総合歯科第1診療室



フィードバックを受ける受験者：平成23年7月16日(土)、水道橋病院矯正歯科診療室

■第330回・第331回大学院セミナー「インプラント」(第5回・第6回)の開催

テーマ別大学院セミナー「インプラント」の5回目(第330回)と6回目(第331回)が平成23年7月7日(木)(午後5時40分より千葉校舎実習講義室Ⅱ)と21日(木)(午後5時40分より千葉校舎第2教室)の両日、「インプラント研究における細菌学」と題した講演が行われ、化学研究室の加藤哲男教授、微生物学講座の国分栄仁助教に講義いただき、活発な質疑応答が繰り返され広がられた。

インプラント周囲炎に関する細菌学的研究としては、病原因子の解明・病巣局所における病原細菌の動態の解析・病原細菌の制御に関する研究があげられるだろう。唾液は、口腔内の環境を維持し、そこに含まれる唾液タンパク質は感染防御に

働いている。我々は特にヒスタチンとシスタチンに注目し、それらの抗菌活性などについて報告してきた。それらに加え、高プロリンタンパク質も歯周病原細菌感染に防御的にはたらいっていることを明らかにした。植物精油（エッセンシャルオイル）であるマヌーカオイルやティートリーオイルは、歯周病原細菌の発育を効果的に抑制する。魚類の体表上皮成分にも多くの抗菌物質が存在しており、その利用が期待されている。日本産ウナギ上皮から精製したガレクチンAJL-1も、*A. actinomycetemcomitans* に対してバイオフィーム形成抑制効果を示した。またこのAJL-1は、本菌の内毒素活性も阻害した。加齢あるいはストレスなどによって抗菌性を示す唾液タンパク質が量的にも質的にも衰えてくると、それは直接インプラント周囲炎の発症にも影響してくるだろう。唾液タンパク質の機能解析に加え、その働きを補助するような天然抗菌物質の検索も、今後の研究課題としてはやはり重要になってくるのではないだろうか。

細菌感染はインプラント体へのプラーク付着、周囲ポケットへの侵入の他に、細胞内への侵入も考えられる。侵入方法は細胞の食作用やエンドサイトーシスを利用した侵入、あるいは接着タンパク質と結合した細胞内侵入がある。細胞内に侵入した細菌は免疫システムを回避し、細胞骨格に沿って細胞内を移動するほか、接着タンパクを利用して細胞間を移動する。細菌は付着因子の他にも宿細胞壁の主成分であるLPS、主免疫反応に対する抵抗因子、酵素産生による組織破壊など様々な病原因子を持っている。LPSやIL-1の刺激は細胞表面に存在するTLRおよびIL-1Rのレセプターを介して細胞内にシグナル伝達を行い、TNFやNF- κ Bを通してIL-6、 β -defensinなどのサイトカイン産生を促進させる免疫反応に関与する。これらを解析する手段として、SEM観察、組織形態組織学的観察、また、ELISA法やmRNA発現量を用いた半定量的測定による分子生物学的検索法が挙げられる。東京歯科大学には多くの分析機器が設置されているので、大いに利用して活発な研究活動を展開していただきたい。

■平成23年度教育ワークショップ報告会開催

平成23年7月22日(金)午後4時より、千葉校舎

教養棟第5教室において、平成23年度教育ワークショップ(報告会)が開催された。今年度は『初年次教育のあり方』『水道橋移転に伴う基礎科目講義および実習のあり方』『臨床基礎実習の再構築』の3つをテーマとし、石井拓男副学長の挨拶で開会された。まず、井出吉信学長からの挨拶において、水道橋移転の進捗状況の報告と今回のテーマが移転事業の中でも重要な部分を占めていると説明があった。次に、河田英司教務部長より、全学年が完全に移行する平成27年度までの予定と移行に向けた来年度の時間割について説明があった。

その後、河田教務部長の司会のもと、作業グループの発表および討議がシンポジウム形式で行われた。

『初年次教育のあり方』については、法人類学研究室の橋本正次教授、『水道橋移転に伴う基礎科目講義および実習のあり方』に関しては、解剖学講座の阿部伸一教授、そして、『臨床基礎実習の再構築』については、クラウンブリッジ補綴学講座の佐藤 亨教授を委員長とするワーキンググループにより、検討を重ねてきた結果について発表および質疑応答が行われた。

『初年次教育のあり方』については、ここ数年の1、2年生はゆとり教育や歯学部志願者減による学力レベルの低下および生活態度がしっかりしていない面がみられ、春に実施した基礎学力テストにおいては学力が二極化しているとの報告があった。従来通り、6年間で患者に信頼される歯科医師・社会人に育て上げるために、初年次教育に必要と思われる①語学教育のクラス編成(日本語力・文章力の向上)、②歯科医学概論・健康学等のあり方、③実習準備学習の導入(スキル学習)、④評価方法について、現在実施している取り組みも含め、1、2年生の学生にアンケートを実施し検討してきた旨説明があった。

態度面については、学生のモチベーションの向上支援とメンタルサポート面について説明があり、学生アドバイザー制度や相談室、目安箱の設置等について提案があった。

『水道橋移転に伴う基礎科目講義および実習のあり方』については、①講義開始時間、1コマの時間、②臨床科目との連携、③新しい視点の教育、④新校舎のスペースを利用した講義・実習の構築等についてグループで討論されてきたと報告が

あった。特に臨床科目との連携については、基礎科目講座が取り組んでいる基礎実習と臨床とのリンク、動機づけと臨床系教員の参加について紹介があった。

また、新しい視点の教育については衛生学で実施されているWeb教材を用いた実習－臨床実践的演習－について紹介があり、移転後は実習スペースが限られてくるので、多数の症例を効率よく見ることができる教材は小スペースで学生が理解を深めることに適しており、今後も他の科目においても活用できないか検討していくと説明があった。

『臨床基礎実習の再構築』については、授業を理解するための実習へ－統合と再考－と題し発表が行われた。各講座において行われている臨床基礎実習をより効率よく履修するために、内容を再編成し、実習開始時の3年次後期より「総合実習①」を導入し、複数講座で実施されている課題や基本的な共通事項を履修する実習を3回実施する。その後、各講座で専門的な実習を実施し、終了時に一口腔単位での診察、診断、治療計画を立案し、マネキン上にて診療シミュレーションを行う「総合実習②」を3回実施し、臨床手順の修得および前後の講義での知識修得を円滑に行えるようにする提案がなされた。今回の提案を実現するには、各講座で実施する実習時間の割り振り等について再検討が必要であるとのことであった。

昨年度に引き続き、テレビ会議システムを利用して、市川総合病院・水道橋病院を結び、教職員やティーチングアシスタント等約180名もの出席者が参加した。

最後に柳澤孝彰副学長より、閉会の辞において、それぞれのテーマは移転後の内容も含めて考えられており、ボリュームも相当あるので、今回



『初年次教育のあり方』について発表する高階 睦准教授：平成23年7月22日（金）、千葉校舎第5教室

の報告会で意見交換をされた内容をふまえ、引き続き教務部と作業グループを中心に全学的に検討していく必要があると説明があり、午後7時過ぎ盛会の内に終了した。



質疑応答風景：平成23年7月22日（金）、千葉校舎第5教室

■平成23年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

平成23年7月25日（月）午後5時30分より、水道橋校舎2階血脇記念ホールにおいて、平成23年度第3回水道橋病院職員研修会が開催された。今回はヒューフレディ・ジャパン株式会社マーケティングスペシャリストで口腔保健学修士の柏井伸子氏を講師にお迎えし、「ガイドラインに基づいた感染管理」と題した講演を伺った。

ウイルス性肝炎の感染患者のうち、医療機関にかかる際に自己申告しない患者の割合が約40%であったという統計調査の結果について説明し、スタンダード・プリコーションの重要性を強調された。また、院内感染防止対策としては、接触感染防止のために、患者に触れる際に个人防护具（手袋・マスク・ガウン・ゴーグル又はフェイスシールド）を着用し、器材の洗浄・消毒・滅菌・保管を徹底することにより、確実に感染経路を遮断する必要であると説明された。

器材の洗浄・滅菌は、超音波洗浄機等を使用して安全かつ確実にを行うことが重要である。さらに、洗浄時の医療安全と効率性に配慮し、鋭利な器材による針刺し事故、器材破損等を予防しながら洗浄・滅菌できる「トレーシステム」の活用について、動画を交えて紹介された。また、安全性の確立のため、デイスポーサブル製品の活用、インジケーターの使用等により滅菌保証を科学的に確認し、記録として保管・管理することも重要であると指摘された。

感染管理は、患者を感染事故から守ることのみならず、医療従事者の安全確保にもつながる。感染事故防止および医療安全管理のためには、院内マニュアルの定期的な見直しやスタッフ教育の徹底が必須であり、医療従事者全員が一丸となって取り組むことが医療の質の向上につながると確信した。



講演される柏井氏：平成23年7月25日（月）、水道橋校舎2階血脇記念ホール

■平成23年度歴代学長・役職者の墓参

例年、夏季期間に行なわれている歴代学長・役職者の墓参は、井出吉信学長、加藤靖明大学事務部長をはじめとする大学職員により下記の日程で執り行われた。

7月25日（月）

高山 紀齋 先生 杉並区「文殊院」

奥村 鶴吉 先生 東村山市「小平霊園」
杉山 不二 先生 府中市「多磨霊園」
松宮 誠一 先生 府中市「多磨霊園」

7月26日（火）

関根 永滋 先生 栃木県藤岡町「慈福院」

7月27日（水）

関根 弘 先生 横浜市「東戸塚霊園」

高木圭二郎 先生 新宿区「真英寺」

7月28日（木）

血脇守之助 先生 松戸市「八柱霊園」

花澤 鼎 先生 松戸市「八柱霊園」

福島 秀策 先生 松戸市「八柱霊園」

鹿島 俊雄 先生 市川市「市川霊園」

井上 裕 先生 印西市「印旛霊園」



井上 裕先生の墓参を行う井出学長：平成23年7月28日（木）、印西市「印旛霊園」

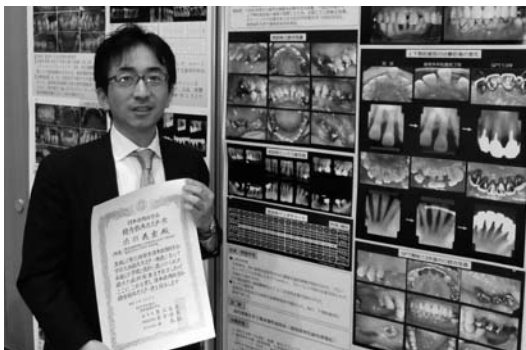
トピックス

■渋川義宏准教授 日本歯周病学会学術大会で優秀臨床ポスター賞を受賞

平成23年5月27日（金）・28日（土）に福岡で開催された第54回春季日本歯周病学会学術大会において、口腔健康臨床科学講座の渋川義宏准教授が優秀臨床ポスター賞を受賞した。この賞は、本学術大会で発表された演題の中から本学会認定医委員会・専門医委員会が選考を行い、卓越した学識と技術に裏付けられた優れた症例報告に贈られる賞である。

今回、受賞した演題は、「薬物性歯肉増殖と2型糖尿病を合併した重度慢性歯周炎患者の14年間の治療経過」であった。近年、歯周病がインスリン抵抗性を介して糖尿病の血糖コントロールに悪影響を及ぼすことが報告され、二者の相互関係が重要視されている。発表では、内科と連携しながら、

糖尿病治療と歯周治療を行い、血糖コントロール状態（HbA1c）と歯周組織検査のデータの推移を長期的に観察したもので、両治療によって血糖コントロールの改善とともに歯周組織の状態が改善し、さらに、14年間のSPT（サポーティブペリオドンタル



受賞した渋川准教授：平成23年5月28日（土）、福岡国際会議場

セラピー)においても、血糖コントロールが良好に維持されていたことを示した。このことは、長期にわたる継続した歯周局所の炎症コントロールが血糖コントロールの良好な維持に影響を及ぼしたことや、咬合機能の回復によって食事療法にも寄与でき、歯周治療は糖尿病治療の一助となることを示唆した発表内容で高く評価された。今後、歯科と内科で、さらなる双方向の医療連携が期待される。

■市川総合病院 病院機能評価認定更新

市川総合病院は、日本医療機能評価機構による「病院機能評価」の認定を受けていたが、本年4月に有効期限をむかえるに伴い、2回目(計3回目)の認定更新受審 (Version6.0) を受け、完全無条件合格いわゆる一発合格を果たし、平成23年6月3日付で認定証 (認定期間:平成23年4月16日~平成28年4月15日) が交付された。

平成13年に初めて病院機能評価 (Version3.1) を受審し認定され、5年後の平成18年に1回目の更新受審 (Version5.0) をし、再審査や確認審査を受けることなく合格を果たしている。

機能評価は書面審査と訪問審査から成り、今回のVersion6.0では市川総合病院 (570床) の場合、52の大項目・244の中項目・629の小項目について審査された。認定されるには、中項目全てが3評価以上 (5~1の5段階評価) が必須である。そして3評価以上をとるためには、原則として全ての小項目がaまたはb評価 (a・b・cの3段階評価) であることが必要である。そして、全ての中項目が3評価以上になるまで繰り返し審査が続けられ、臨床研修指定病院、地域がん診療連携拠点病院や救急指定病院はより厳しく評価される。

結果は、小項目では608項目 (96.7%) にa評価、21項目 (3.3%) にb評価を受けた。中項目では

224項目 (91.8%) で4評価、20項目 (8.2%) で3評価を受け、改善要望事項・留意事項・報告書指摘事項はなく完全無条件で、前回と同様に一発合格を果たす事ができた。この完全無条件合格いわゆる一発合格は、今まで受審した病院のうち約10%の病院のみがなし得ている。

総評としては、「歯科大学付属の総合病院として、災害拠点病院や地域がん診療連携拠点病院に指定されており、一貫して地域の中核的な医療機関として活動されている」点などが高く評価された。

なお、「認定証」は、市川総合病院1階外来待合ホール入口に掲示してある。

■クラス会 (77期会: 昭和47年卒業) より大学へのご寄付

昭和47年卒業のクラス会 (77期会) 一同より、クラス会名に因み大学へ77万円が寄付された。平成23年6月11日 (土)、東京ドームホテル・シリウスの間クラス会会場において、77期会会長の市川 豊先生から目録が同期である井出吉信副学長 (現学長) に手渡された。



井出副学長 (現学長) (右) へクラス会 (77期会: 昭和47年卒業) より寄付金を手渡す市川77期会会長 (左): 平成23年6月11日 (土)、東京ドームホテル・シリウスの間 77期会クラス会会場



77期会クラス会記念写真: 平成23年6月11日 (土)、東京ドームホテル・シリウスの間 77期会クラス会会場

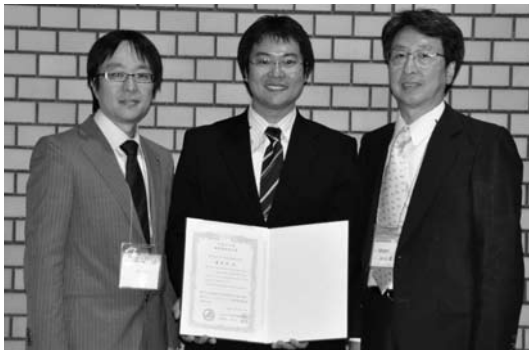


病院機能評価認定証

77期会からは、「今回の寄付は、大学移転事業が本格化し、いよいよゴールが視野に入り、今まさに母校が飛躍しようというとき、その伝統の継承とさらなる発展を願うものであり、幸運の数が並ぶ77期会からの応援のメッセージと受け取って頂ければ。」とのお話をいただき、和やかなうちに贈呈式が執り行われた。

■竜 正大助教 日本老年歯科医学会優秀奨励論文賞を受賞

有床義歯補綴学講座の竜 正大助教が日本老年歯科医学会の平成22年度優秀奨励論文賞を受賞し、平成23年6月16日(木)・17日(金)に行われた第22回日本老年歯科医学会学術大会・総会にて表彰された。受賞論文は「Oral environmental factors affecting number of microbes in saliva of complete denture wearers (J Oral Rehabil. 2010 ; 37(3) :194-201)」であった。口腔内微生物は全身疾患の罹患に関連し、口腔ケアによりその数を抑制することが有効とされているが、口腔微生物数に影響を及ぼす因子が十分に明らかになっているとは言えず、それゆえ効果的な口腔ケア法も確立していない。そこで無歯顎者を対象に唾液中微生物数に影響を及ぼす口腔の因子を探索し、唾液中微生物数に唾液の量や性質、舌苔の付着、デンチャープラークの付着および口腔清掃の頻度といった因子が関係していることを明らかにした。本研究を基にして、効果的な口腔ケア法を確立すべく現在も研究は継続されており、今後の発展が期待される。



受賞した竜助教(中央)と共同著者の櫻井 薫教授(右)、上田貴之准教授(左)：平成23年6月16日(木)、京王プラザホテル

■佐藤正樹ポストドクトラル・フェロー 日本歯科薬物治療法学会で優秀発表賞を受賞

平成23年6月25日(土)・26日(日)に行われた第31回日本歯科薬物治療法学会(幕張メッセ、千葉)において、口腔科学研究センターの佐藤正樹ポストドクトラル・フェローが「マウス象牙芽細胞系細胞における浸透圧受容器TRPV4と Na^+ - Ca^{2+} 交換体の機能関連」の演題で一般部門の優秀発表賞を受賞した。

本賞は、研究内容、プレゼンテーション、研究成果を審査員が総合的に採点・評価し、一般部門・大学院生部門・学生部門にそれぞれ贈られる賞である。日本歯科薬物治療法学会は臨床医の発表・参加が多い中、会場では佐藤ポストドクトラル・フェローのポスター前には絶えることなく聴衆がおり、基礎研究への興味と重要性が発表時間を越えて議論を交わしていたことからもうかがえた。

今回の研究は、象牙質の露出に伴う象牙細管液の移動による象牙芽細胞突起の伸展を、低浸透圧刺激で再現したものである。この研究によって象牙芽細胞に発現するTRPチャンネルが細胞膜伸展による機械刺激を受容し、さらに細胞外へ Ca^{2+} を排出する Na^+ - Ca^{2+} 交換体を駆動することで象牙質刺激に伴う反応性象牙質形成を生じる可能性が示唆された。象牙芽細胞の刺激受容機構の解明は、歯髄痛覚の伝達系の解明につながる研究であり、今後の成果が期待される。



受賞した佐藤ポストドクトラル・フェロー

■東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)に対する東京歯科大学としての支援の報告

3月28日付ポータルサイトにてお知らせしました「東北地方太平洋沖地震に対する東京歯科大学としての支援を開始(1)」における「[7]被災同窓生へのお見舞金については、同窓会本部の協力を得

て被害状況を調査し、6月29日(水)に45名の同窓生に対し総額103万円をお渡し致しましたのでお知らせします。

■千葉東高校からインターンシップで本学訪問

平成23年7月15日(金)午後2時30分より、千葉県立千葉東高等学校の1年生と進路指導部の教諭の全15名がインターンシップとして、大学見学に訪れた。まず、第2教室において、かつて千葉東高校においても教壇に立ったことがある、化学研究室の小澤 誠客員教授、生物学研究室の遠山光則客員教授より、挨拶があった。次に、口腔外科学講座の成田真人助教により、「歯科医師とは・・・」と題し、専門分野をはじめとする「歯科」、そして「歯科医師」という職業について、多岐にわたり説明がなされた。実際の治療や手術の様子を撮影した動画が流れると、皆食い入るように眺め、高校生にも分かりやすい内容であった。引き続き、成田助教の案内の元、病院棟の手術室、口腔外科の外来見学が行なわれた。直前の説明で登場した、手術で使用する道具を実際に手にとって見るなど充実したものであった。

口腔科学研究センターでは、石原和幸教授と田所克己主任研究技術員による体験実習、見学が行なわれた。参加者自身の口腔内の菌を採取し顕微鏡で見る内容で、初めて目にするものばかりで、皆興味深げに実習に取り組んでいた。解剖標本室の見学では、珍しい標本の数々を見て、解剖学講座の坂 英樹講師、岩沼 治助教に対して、時間いっぱいまで質問を行っていた。

最後に、第2教室に戻り、長谷川雄教務係長より、歯学部や東京歯科大学での教育等について説明がなされた。今回で5回目を迎えた千葉東高校のインターンシップであったが、高校生たちに大変好評であり、今後も高大連携の取組として引

き続き協力していきたいと考えている。



体験実習風景：平成23年7月15日(金)、口腔科学研究センター

■花岡洋一准教授 海上保安庁より海上保安歯科医を委嘱される

法歯学講座の花岡洋一准教授が、平成23年7月27日付をもって、海上保安庁東京海上保安部より海上保安歯科医としての委嘱を受けた。

海上保安歯科医とは、海上保安領域におけるご遺体の識別等を担う歯科医師として、本年度より海上保安庁に新設されたもので、初の海上保安歯科医となる。



海上保安庁東京海上保安部警備救難課 加治浩人専門官(左)より、海上保安庁のキャップと委嘱状を手渡された花岡准教授(右)

長期海外出張者報告

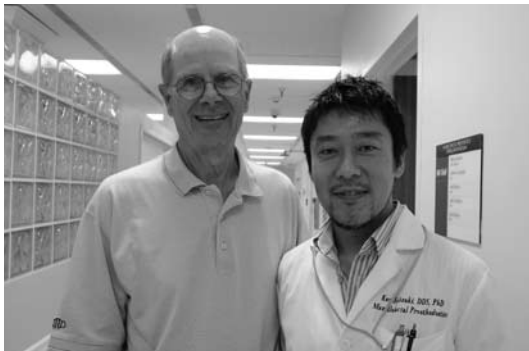
■有床義歯補綴学講座 講師 石崎 憲

この度、平成21年10月より平成23年6月までの1年9ヶ月間、長期海外出張させていただきましたので、その出張内容を報告します。

出張先はロサンゼルス中心部にあるカルフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)歯学部補綴科で

す。UCLA歯学部補綴科は、一般の補綴外来と顎顔面補綴専門外来の2つに分かれています。診療室は隣同士ですが、専属の医局員がそれぞれの外来で治療に当たっています。UCLA歯学部顎顔面補綴科のスタッフはJohn Beumer教授の他、3名のfacultyと3名のレジデントから構成されていま

す。レジデントに対しては1年間の研修プログラムが組まれており、年間を通じBeumer教授が自らレクチャーを行い、外来においても積極的に手技的指導を行っていました。さらにこのプログラムの優れたところはUCLA医学部顎顔面外科の病棟回診や術前カンファレンスへの参加が組み込まれているところにあります。カンファレンスでは歯科医の意見を求められることも多く、レジデントには大きな刺激となっています。顎顔面補綴科のレジデントプログラムに入るためには歯学部卒業後、3年間の補綴科レジデントプログラムの終了が条件となっています。補綴科に限ったことではありませんがUCLAのレジデント枠はとても狭き門であり、各科ともに倍率は10-20倍と聞いています。私はBeumer教授のご厚意によりレジデントとともに1年間研修を積むことができました。顎顔面補綴外来の来院患者数は一日平均約5名/Dr.程度でしたが、顎顔面補綴処置は通常の補綴処置に比べ時間のかかる処置が多く、この患者数でもチェア-6台の外来はいつも慌ただしく動いていました。外来には歯科衛生士1名、助手4名、併設するラボには歯科技工士2名が顎顔面補綴科専属で配属されています。ラボワークに関してはそのテクニシャンから直接指導を受けることができました。このような環境の中で私は1年間で数百



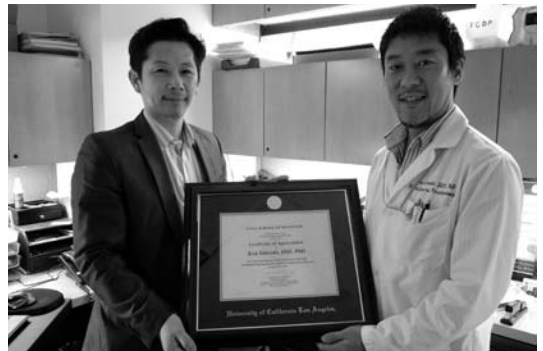
Beumer教授（左）とともに：UCLA顎顔面補綴科診療室にて

例の症例と接することができました。全米から顎顔面補綴症例が集まるUCLAでなければこのような経験はできなかったと感じています。

1年間のプログラム終了後、補綴科小川隆広教授の指導のもと、研究を行う機会を得て、従事させていただくことができました。研究テーマは、末梢血単核球の骨芽細胞様細胞の増殖・分化能への影響というもので、留学の間3回の学会発表を行い、本年3月にアメリカ・サンディエゴで行われたIADRでは幸運にも最優秀学術研究賞をいただくことができました。本分野の研究に関して素人同然であった私に一から指導していただいた小川教授をはじめ研究室のスタッフには大変感謝しております。

現在、日本国内で顎顔面補綴処置を行うにあたっては、材料、法令等の諸問題が未だ山積しており、直ぐにUCLAの完成されたシステムを導入することは困難が予想されますが、今後この留学期間に得た経験をもとに、顎顔面補綴治療の普及に努めていく所存です。

このような貴重な出張の機会を与えていただきましたことを、関係各位ならびに櫻井 薫教授に厚く御礼申し上げます。また、出張中すべての面で力添えを頂きました有床義歯補綴学講座の皆様にも重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



小川教授（左）より留学終了のcertificateを頂く：小川教授室にて

学生会ニュース

■第43回歯学体結団式開催

第43回歯学体結団式は、平成23年7月7日（木）午後12時20分より、体育館2階アリーナに出場するクラブが一堂に参集して行われた。

井出吉信学長から「やるからには勝負にこだわ

り、悔いの無いよう全力でぶつかって来ていただきたい。」また、矢島安朝学生部副部長から「いつも勉強・勉強と言っているが、ユニフォーム姿の君たちは別人のようだ。怪我のないよう精いっぱい頑張ってもらいたい。」と挨拶を頂いた。

これを受けて運動部長の少林寺拳法部主将本田健太郎君(第4学年)から「いよいよ今年も歯学体の季節がやってきました。勉強で忙しい中、この時のために日々努力してきました。去る3月11日に東日本大震災を経験しましたが、地震・津波・原発事故の影響で現在も避難生活を余儀なくされ、大好きなスポーツを満足にできない人が未だにいます。その様な人達がいる一方で、私達はこの恵まれた環境で練習し大会に出られるということに感謝し、努力することが大切だと思います。最後に、東京歯科大学の学生であることの自覚と誇りを持って、悔いのないように頑張りましょう。」と意気込みのこもった挨拶があった。

続いて行われた選手宣誓では、硬式野球部主将大津雄人君(第4学年)が「僕たち選手一同は、日ごろの練習の成果をいかに発揮し、東京歯科大学の名に恥じぬようフェアプレーとスポーツマンシップの基に精一杯戦い抜くことを誓います。がんばろう日本。」と力強い宣誓を行った。その後、各クラブ主将から目標や意気込みを声高らかに発表し、最



歯学体出場選手を激励する井出学長：平成23年7月7日(木)、千葉校舎体育館アリーナ



運動部長として挨拶をする少林寺拳法部主将 本田君(第4学年)：平成23年7月7日(木)、千葉校舎体育館アリーナ

後に参加者全員で校歌を斉唱して閉会した。



選手宣誓をする硬式野球部主将 大津君(第4学年)：平成23年7月7日(木)、千葉校舎体育館アリーナ

■演劇部・「幕の内」第15回公演

東京歯科大学演劇部・「幕の内」第15回公演が、平成23年7月8日(金)の夜と9日(土)の午後3時より、千葉校舎でおこなわれた。今回の公演は節電による夏期の講堂使用の自粛にともない、厚生棟1階の第1活動室に舞台と客席を設営し、空調を使えない中での開催となった。狭い空間の中で役者と観客が一体感を持ち、飛び散る汗で舞台がぬれてスリップしてしまうほどの役者たちの熱気とともに、配られたかち割り氷を手に、芝居の中に引き込まれていった。

今回は、演劇部公演の脚本を何本も手がけてきた大峰悠矢氏による新作の「シュトゥルム」(ドイツ語の“sturm・嵐”)。J.W.ゲーテ「若きウェルテルの悩み」を下敷きとして、18世紀のドイツ・ワイマールを舞台に“人間の感情の嵐”を作品に仕上げたものであり、これを大学時代に影響を受けた恩師に捧げたとのこと。そして、この作品をテクニカルアドバイザーの先輩たちのサポートを受けながら、平石裕樹君が初演出した。

主人公の青年ウェルテルには長谷川 祥君、そして彼が愛するシャルロッテ・プファを久家美沙緒さんが演じ、物語の鍵を握るアルベルチヌの小澤 遥さん、フロイデの平井瑞季さん、ヨハンの大橋 新君の三人の一年生が好演した。

「あの星が美しいのは、手に届かないから・・・」ポスターに書かれた言葉のように、恋の絶頂から、いくつかの事件によって苦悩と絶望の淵に立ち、そして最後に、自らの命を絶とうと拳銃の引き金に指をかけたウェルテルの手を、そっと制したアルベルチヌの優しさで幕を閉じたラスト

シーンに、悩める若人の新しい未来が見えるようで、救われる思いがした。

今回は第1活動室での舞台設営など初めての試みで厳しいものがあったが、そのなかで、役者達



劇中のシーン・ウェルテル(左)：平成23年7月9日(土)、千葉校舎厚生棟第1活動室

の熱演が光り、それを支える演劇部員たちの創意と工夫によって、観客と舞台がひとつになった印象的な公演となった。(演劇部部長 橋本貞充)



劇中のシーン・二人のヒロイン、アルベルチーナ(左)とシャルロッテ(右)：平成23年7月9日(土)、千葉校舎厚生棟第1活動室

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

川口 充[ほか]執筆 薬理学(新歯科衛生士教本)第2版 医歯薬出版、2011

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

■著作権講習会開催

平成23年7月5日(火)午後6時より、千葉校舎第1教室において、株式会社サンメディア・松下 茂氏を講師にお迎えし、「教育研究と著作権:仕組みを知って自らの著作物を守り広げよう」と題した講演を伺った。当日参加者は18名であった。講演



講演される松下氏：平成23年7月5日(火)、千葉校舎第1教室

では、著作権が保護される期限や周辺のさまざまな権利などの基本的な仕組みをはじめとして、論文執筆の際の権利の譲渡、調査研究のための論文の複写、授業で使う場合の複製など、研究者として知っておくべきことを様々にご説明いただいた。講演後には質疑応答が活発に行われ、アンケート結果も「役に立つ」と回答した方がほとんどであり、大変有意義な講習会であった。

■文献検索講習会開催(市川総合病院)

平成23年7月12日(火)市川総合病院図書室において、午後5時と6時より、2回にわたり文献検索講習会が開催された。医科関係の主要な文献データベースである医中誌Web、PubMedでの文献検索のほか、当院から利用できる電子ジャー



文献検索講習会風景：平成23年7月12日(火)、市川総合病院図書室

ナルの探し方、蔵書検索、文献複写依頼の方法について、実際にパソコンを操作する実習形式で行われた。2回で5名の参加者があり、アンケートで

はインパクトファクターやSCOPUSについての講習会を希望する意見が寄せられた。

〈大学史料室から〉

■卒業アルバムほかの寄贈を受ける

○平成23年5月、山形県山形市在住の齋藤利明先生（昭和45年卒）から、ご尊祖父 利義先生（大正4年卒）、ご尊父利世先生（昭和15年卒）お二人の卒業アルバム、卒業証書、歯科医師免許証など40数点の資料をご寄贈いただいた。賞状類のほか、手紙、写真、図書・雑誌、新聞・雑誌の記事など様々であり、第二次日本歯科医師会 第1回定時総会（昭和18年3月24日）集合写真のように、歯科医学史の記録として価値の高い資料も含まれている。大変貴重な資料であり、大切に保存し後世に伝えたい。

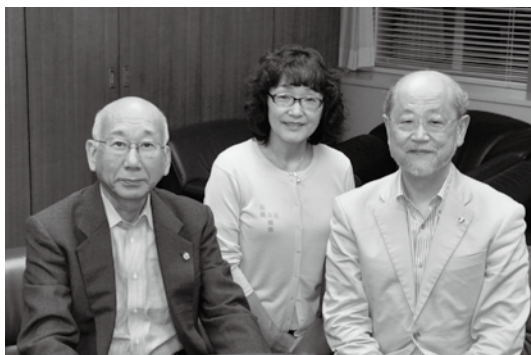
○平成23年6月、秋田県秋田市在住の中村 勤先生（昭和41年卒）から、高山紀齋揮毫の画幅（二幅）と血脇守之助、奥村鶴吉、綿引朝光揮毫の書（寄書き 掛軸一幅）をご寄贈いただいた。これらの書画はご尊祖父 重敬先生（同窓会推薦会員）が所蔵していた品で、先生は明治30年ころ血脇先生宅に食客として住込み、苦学して

歯科医師となった。高山歯科医学院に勤務した後米国へ留学、明治37年帰国し秋田市で開業された。

画幅の落款には大正11年と昭和2年の年号の記載があり、高山先生晩年の作品である。寄書きは年号など不明だが、奥村先生の書は希少である。どれも大変貴重な資料であり、大切に保存し後世に伝えたい。



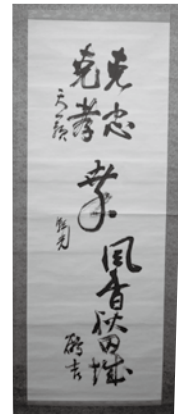
第二次日本歯科医師会 第1回定時総会



齋藤先生ご夫妻と金子学長（現理事長）（左）：平成23年5月30日（月）、水道橋校舎5階法人役員室



高山先生揮毫の画幅（二幅）



血脇先生、奥村先生、綿引朝光先生揮毫の寄書き

創立120周年記念事業

■創立120周年記念誌発刊に向けた最終の記念誌編纂会議開催

平成23年7月7日（木）午後4時より、千葉校舎

第1会議室において、第4回創立120周年記念事業記念誌編纂部会が開催された。今回は金子 譲理事長、井出吉信学長、顧問の水川秀海先生（昭

和34年卒)にもご出席いただき、柳澤孝彰委員長の開会挨拶、川口 充副委員長(記念誌担当)の進行により、記念誌「近代歯科医学教育を拓く」原稿の最終確認が行われ、今後は8月末の完成を目指して進めていく予定である旨説明があった。

記念誌の編集作業は、平成20年5月8日に第1回目の記念誌編纂部会の開催から進められ、今回が最終の記念誌編纂会議となった。この部会は学内教職員の他、同窓会や父兄会の代表で構成され、図書課、大学史料室、企画・調査室が事務局として進められてきた。

なお、この部会では平成22年5月に制作された、記念DVD「近代歯科医学教育を拓く—東京歯科

大学の120年—」(櫻井 薫副委員長担当)の編集も行っている。



創立120周年記念事業記念誌編纂部会：平成23年7月7日(木)、千葉校舎第1会議室

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎

- 大宮歯科衛生士専門学校(学生41名、教員2名)
平成23年7月14日(木)解剖学教室、病院見学
- 埼玉県立常盤高等学校看護専攻科(学生82名、教員4名)
平成23年7月19日(火)解剖標本室、解剖実習室見学
- 国際医療福祉専門学校(学生53名、教員3名)
平成23年7月26日(火)解剖標本室、解剖実習室見学

市川総合病院

- 東京ベイ・浦安市川医療センター(薬剤師2名)
平成23年6月7日(火)病院見学

■海外出張

- 堀田 拓講師(市病・整形外科)
第11回日仏整形外科合同会議に参加、および発表のため、6月2日(木)から6日(月)まで、フランス・ボルドーへ出張。
- 吉成正雄教授(口腔科学研究センター・口腔インプラント学研究部門)
Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society in 2011に参加、および発表のため、6月5日(日)から12日(日)まで、スペイン・グラナダへ出張。
- 外木守雄准教授、細濱教子大学院生(オーラル

メディシン・口腔外科)

スタンフォード大学Sleep Surgery Centerで研究打ち合わせのため、および2011 American Academy of Dental Sleep Medicineにて発表のため、6月7日(火)から14日(火)まで、アメリカ・サンフランシスコ、およびミネアポリスへ出張。

- 中島庸也教授(市病・耳鼻咽喉科)
スタンフォード大学Sleep Surgery Centerで研究打ち合わせのため、および25th Anniversary Meeting of the Associated Professional Sleep Societiesで発表のため、6月7日(火)から14日(火)まで、アメリカ・サンフランシスコ、およびミネアポリスへ出張。
- 白石 建教授、青山龍馬助教、山根淳一助教(市病・整形外科)
第27回ヨーロッパ頰椎外科学会に参加、および発表のため、6月7日(火)から13日(月)まで、トルコ・イスタンブールへ出張。
- 木下英明大学院生(解剖)
Oral Physician海外研修in Malmöに参加のため、6月12日(日)から19日(日)まで、スウェーデン・マルメへ出張。
- 新谷誠康教授、米津卓郎講師、泉水祥江助教、児島泰子レジデント、山下治人大学院生、石岡みずき大学院生(小児歯科)
第23回国際小児歯科学会に参加、および発表のため、6月13日(月)から20日(月)まで、ギリ

シャ・アテネへ出張。

- 野嶋邦彦講師、坂本輝雄講師、西井 康助教、
鮫島千恵レジデント(矯正歯科)

87th Congress of the European Orthodontic Societyに参加、および発表のため、6月18日(土)から、野嶋講師は26日(日)まで、坂本講師、西井助教、鮫島レジデントは24日(金)まで、トルコ・イスタンブールへ出張。

- 宮崎晴代講師(水病・矯正歯科)

87th Congress of the European Orthodontic Societyに参加、および発表のため、6月19日(日)から25日(土)まで、トルコ・イスタンブールへ出張。

- 篠崎尚史講師・センター長、李 暁露事務員(角膜センター)

アメリカアイバンク協会年次総会に参加のため、また、Sight Life会議に出席のため、6月19日(日)から29日(水)まで、アメリカ・トゥーソン、およびシアトルへ出張。

- 青木 大コーディネーター、松本由夏コーディネーター(角膜センター)

アメリカアイバンク協会年次総会に参加、および発表のため、6月20日(月)から27日(月)まで、アメリカ・トゥーソンへ出張。

- 武田友孝准教授(スポーツ歯科)

Academy for Sports Dentistry 29th Annual Symposiumに参加、および発表のため、6月21日(火)から28日(火)まで、アメリカ・ラスベガスへ出張。

- 田中一郎准教授(市病・形成外科)

第6回国際再建マイクロサージャリー学会に参加、および発表のため、6月28日(火)から7月4日(月)まで、フィンランド・ヘルシンキへ出張。

- 眞木吉信教授(社会歯科)

58th ORCA Congressに参加、および発表のため、また、マルメ大学との研究打ち合わせのため、7月1日(金)から11日(月)まで、リトアニア・カウナス、およびスウェーデン・コペンハーゲンへ出張。

- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴)

2011 Asia Pacific KOL Symposiumへ参加のため、およびベルリン自由大学を訪問のため、7月7日(木)から16日(土)まで、ドイツ・シェフィールド、およびベルリンへ出張。

- 佐野 司教授(歯科放射線科、国際渉外部)

延世大学校との新たな診断画像配信に係る打合せのため、7月14日(木)から18日(月)まで、韓国・ソウルへ出張。

- 武田友孝准教授、雨宮あい大学院生(スポーツ歯科)

International Society on Oxygen Transport to Tissueに参加、および発表のため、7月23日(土)から29日(金)まで、アメリカ・ワシントンへ出張。

- 阿部伸一教授(解剖)

Elective Studyの引率のため、7月31日(日)から8月4日(木)まで、台湾・台北へ出張。

大学日誌

平成23年6月

- 1 (水) 平成23年度定期健康診断実施(~3日)

リスクマネージメント部会

ICT会議

輸血療法委員会

臨床検査部運営委員会

千葉校舎課長会

防火・防災安全自主点検日

口腔健康臨床科学講座会(水病)

- 2 (木) カルテ指導委員会

文献検索講習会(医中誌Web)

感染制御委員会(市病)

- 2 (木) 治験審査委員会・倫理委員会(市病)

- 3 (金) 文献検索講習会(Pub Med)

- 4 (土) 第291回東歯学会(例会)

- 6 (月) 6年生第1回総合学力試験(~7日)

教務部(課)事務連絡会

プログラム責任者・副責任者会議

- 7 (火) 2・3年生健康診断

- 8 (水) 看護部運営会議(市病)

業務改善委員会(市病)

救急委員会(市病)

ICU運営委員会(市病)

リスクマネージメント部会(水病)

8 (水)	薬事委員会(水病)	18 (土)	各学年主任・クラス主任による説明 学年主任・クラス主任による三者個別 面談会 歯科衛生士専門学校説明会 平成23年度第2回病院見学会(市病) 午後のリサイクル(市病) 患者サロン(市病) 水道橋病院診療録記載に関するワーク ショップ(水病)
9 (木)	1年生健康診断(編入者含む) 総合講義検討委員会 前期健康診断(~15日)(市病)	19 (日)	緩和ケア研修会(市病)
10 (金)	大学院運営協議会 ICLS講習会(市病) ICT委員会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)	20 (月)	医療連携委員会 教養科目協議会 機器等安全自主点検日
13 (月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会 医療安全研修会	21 (火)	医療安全管理委員会(市病) 給食委員会(水病) 理事会(法人) 評議員会(法人)
14 (火)	臨床教授連絡会 講座主任教授会 全体教授会 人事委員会 教授懇親会 褥瘡対策委員会(市病)	22 (水)	看護部運営会議(市病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会(水病)
15 (水)	大学院運営委員会 衛生委員会 大学院研究科委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 手術室運営委員会(市病) CPC(市病)	23 (木)	管理診療委員会(市病)
16 (木)	千葉校舎課長会 業務連絡会 高度・先進医療委員会 部長会(市病) 診療録指導委員会(水病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)	24 (金)	クリニカルパス委員会(市病) 災害対策実施部会(市病)
17 (金)	実験動物供養祭	26 (日)	緩和ケア研修会(市病)
18 (土)	全教授および修学指導関係者と保護者 との懇談会 父兄会定時総会 全学生の保護者に対する修学指導方針 の説明会	27 (月)	褥創対策委員会 第104回歯科医学教育セミナー 電子カルテシステム運用管理委員会 (市病) NST勉強会(市病) 教職員健康診断(第1日目)(水病)
		28 (火)	薬事委員会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会 医療サービスに関する検討会 教職員健康診断(第2日目)(水病)
		29 (水)	新入生学外セミナー(~7/1)
		30 (木)	診療録管理委員会(水病)
		平成23年7月	
		1 (金)	防火・防災安全自主点検日
		2 (土)	大学教育推進プログラム公開フォーラム [於:水道橋校舎]
		3 (日)	学外臨床実習に関するWS[於:水道橋校舎]

4 (月)	教務部(課)事務連絡会 第8回不正防止推進室打合せ 理事長・学長就任式 千葉病院臨床研修管理小部会 薬事委員会(市病)	13 (水)	リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医薬品安全管理委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)
5 (火)	著作権講習会	14 (木)	カルテ指導委員会 千葉校舎課長会 全体課長会
6 (水)	4年生HBワクチン接種(1回目) リスクマネージメント部会 ICT会議 教育WS「臨床基礎実習」作業部会 口腔健康臨床科学講座会(水病)	15 (金)	環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 手術室運営委員会(市病)
7 (木)	第43回全日本歯科学学生総合体育大会結 団式 第4回創立120周年記念事業記念誌編纂 部会 感染制御委員会(市病) 治験審査委員会・倫理委員会(市病)	16 (土)	歯科衛生士専門学校1・2年生夏期休暇 (～8/31) 患者サロン(市病) 市病・水病合同臨床研修歯科医OSCE (水病)
8 (金)	大学院運営協議会 ICLS講習会(市病) ICT委員会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)	19 (火)	医療安全管理委員会(市病)
10 (日)	入試ガイダンス[於:水道橋校舎]	20 (水)	蔵書点検(～22日) 衛生委員会 機器等安全自主点検日 輸血療法委員会(市病) CPC(市病)
11 (月)	2～4年生夏期休暇(～8/31) 病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会 平成24年度臨床研修歯科医募集病院説 明会(本学対象)	21 (木)	業務連絡会 高度・先進医療委員会 部長会(市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)
12 (火)	粗大ゴミの廃棄(～14日) 臨床教授連絡会 講座主任教授会 人事委員会 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 褥創対策委員会(市病)	22 (金)	教育WS報告会 平成24年度第1回看護師採用選考試験 (市病) クリニカルパス委員会(市病) 災害対策実施部会(市病)
13 (水)	1年生夏期休暇(～8/31) 基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 看護部運営会議(市病) 業務改善委員会(市病) ICU運営委員会(市病)	25 (月)	医療連携委員会 電子カルテシステム運用管理委員会 (市病) NSTカンファレンス・勉強会(市病) 教職員研修会(水病)
		26 (火)	データ管理者会議 カルテ整備委員会 図書委員会 診療記録管理委員会 歯科衛生士専門学校3年生夏期休暇(～8/30)

27 (水)	看護部運営会議(市病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)	28 (木)	管理診療委員会(市病)
28 (木)	歯科衛生士専門学校説明会 第1回サマーインターンシップ(市病)	29 (金)	第1回サマーインターンシップ(市病)
		30 (土)	入試ガイダンス[於:水道橋校舎] 平成24年度第2回看護師採用選考試験(市病) 午後のリサイクル(市病)

平成24年度東京歯科大学入学試験要項

推薦入学（一般公募制）

募集人員 約45名（全募集人員128名中）
（指定校制推薦を含む）

（趣旨）

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成23年3月高等学校卒業者または平成24年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

選考内容

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
- (3) 面接

出願期間

平成23年11月1日（火）から平成23年11月8日（火）
（期間内必着のこと）

選考日・選考会場

選考日 平成23年11月12日（土）

- 選考会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18
 - 2) 大阪会場 天満研修センター
大阪市北区錦町2-21
 - 3) 福岡会場 TKP天神シティセンター
福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル8階

合格通知日

平成23年11月15日（火）

入学手続

平成23年11月17日（木）から平成23年12月2日（金）
正午まで

帰国子女・留学生特別選抜

募集人員 若干名（全募集人員128名中）

（趣旨）

帰国子女または日本に留学しようとする外国籍を有する外国人で、本大学において歯科医学教育を受けることを強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成24年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成24年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成24年3月31日までに18歳に達する者。

選考内容

次の試験を日本語で行う。

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
- (3) 面接

出願期間

平成23年11月1日（火）から平成23年11月8日（火）
（期間内必着のこと）

選考日・選考会場

選考日 平成23年11月12日（土）

- 選考会場
- 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18
 - 2) 大阪会場 天満研修センター
大阪市北区錦町2-21
 - 3) 福岡会場 TKP天神シティセンター
福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル8階

合格通知日

平成23年11月15日（火）

入学手続

平成23年11月17日（木）から平成23年12月2日（金）
正午まで

編入学A

募集人員 若干名

（編入年次）

第2学年4月に編入

（出願資格）

次のいずれかを満たす者とする。

- ①4年制大学卒業者または平成24年3月卒業見込の者
 - ②医療技術系短期大学を卒業した者または平成24年3月卒業見込の者
- ※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者
- ※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

- (1) 小論文・小テスト（英語等の基礎学力

に関する総合的試験）

- (2) 面接（グループ面接・個人面接）

※学士等特別選抜Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文・小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文・小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成23年11月1日（火）から平成23年11月8日（火）
（期間内必着のこと）

試験日・試験会場

試験日 平成23年11月12日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成23年11月15日（火）

入学手続

平成23年11月17日（木）から平成23年12月2日（金）
正午まで

編入学B

募集人員 若干名

（編入年次）

第2学年4月に編入

（出願資格）

次のいずれかを満たす者とする。

- ①4年制大学卒業者または平成24年3月卒業見込の者
 - ②医療技術系短期大学を卒業した者または平成24年3月卒業見込の者
- ※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者
- ※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

- (1) 小論文
- (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト）

※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択

(3) 面接（グループ面接・個人面接）

※学士等特別選抜Bを併願する者は、編入学試験Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成24年2月21日（火）から平成24年3月6日（火）
（郵送の場合、必着）

（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試験日 平成24年3月10日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成24年3月13日（火）

入学手続

平成24年3月14日（水）から平成24年3月21日（水）
正午まで

学士等特別選抜A

募集人員 若干名（全募集人員128名中）

（入学年次）

第1学年4月に入学

（出願資格）

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業者または平成24年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成24年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

(1) 小論文・小テスト（英語等の基礎学力

に関する総合的試験）

(2) 面接（個人面接）

※編入学試験Aを併願する者は、編入学試験Aの「小論文・小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Aの「小論文・小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成23年11月1日（火）から平成23年11月8日（火）
（期間内必着のこと）

試験日・試験会場

試験日 平成23年11月12日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成23年11月15日（火）

入学手続

平成23年11月17日（木）から平成23年12月2日（金）
正午まで

学士等特別選抜B

募集人員 若干名（全募集人員128名中）

（入学年次）

第1学年4月に入学

（出願資格）

次のいずれかを満たす者とする。

①4年制大学卒業者または平成24年3月卒業見込の者

②医療技術系短期大学を卒業した者または平成24年3月卒業見込の者

※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学

③4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者

※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

試験内容

(1) 小論文

(2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト）

※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択

(3) 面接 (個人面接)

※編入学試験Bを併願する者は、編入学試験Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験の受験をもって学士等特別選抜Bの「小論文」「小テスト」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成24年2月21日(火)から平成24年3月6日(火)
(郵送の場合、必着)
(土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成24年3月10日(土)

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18

合格通知日

平成24年3月13日(火)

入学手続

平成24年3月14日(水)から平成24年3月21日(水)
正午まで

一般入試 (I期)

募集人員 約50名(全募集人員128名中)

試験内容

(1) 学力試験

①外国語(英語:英I、英II、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションI,IIに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。)

②数学(数学:数I、数II、数A、数B。なお、数Bは「数列」と「ベクトル」を出題範囲とする。)

③理科(物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお、出題範囲は下記のとおりとする。)

- ・物理:物I、物II[ただし、学習指導要領に示された物理IIのうち以下のものを除く「(3)物質と原子」の「イ原子、電子と物質の性質」、「(4)原子と原子核」]
- ・化学:化I、化II
- ・生物:生I、生II[ただし、学習指導要領に示された生物IIのうち以下のものを

除く「(3)生物の集団」]

(2) 小論文

(3) 面接

※大学入試センター利用試験(I期)を併願する者は、一般入試(I期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験(I期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成23年12月16日(金)から平成24年1月27日(金)
(郵送の場合、必着)
(平成23年12月28日(水)から平成24年1月4日(水)の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成24年2月2日(木)

試験会場 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18
2) 大阪会場 天満研修センター
大阪市北区錦町2-21
3) 福岡会場 TKP天神シティセンター
福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル8階

合格発表日

平成24年2月4日(土) 午後4時

入学手続

1. 入学金

平成24年2月6日(月)から平成24年2月13日(月)
正午まで

2. その他の諸経費

平成24年2月6日(月)から平成24年2月20日(月)
正午まで

大学入試センター利用試験 (I期)

募集人員 13名(全募集人員128名中)

出願資格

平成24年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

(1) 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目	配点
外国語	「英語（リスニングを除く）」	100点
数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目	100点
理科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	100点

※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

(2) 小論文

(3) 面接

※一般入試（Ⅰ期）を併願する者は、一般入試(Ⅰ期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅰ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成23年12月16日（金）から平成24年1月27日（金）
（郵送の場合、必着）

（平成23年12月28日（水）から平成24年1月4日（水）の間および土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試験日 平成24年2月2日（木）

試験会場 1) 東京会場 東京歯科大学水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18

2) 大阪会場 天満研修センター
大阪市北区錦町2-21

3) 福岡会場 TKP天神シティセンター
福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル8階

合格発表日

平成24年2月4日（土）午後4時

入学手続

1. 入学金

平成24年2月6日（月）から平成24年2月13日（月）
正午まで

2. その他の諸経費

平成24年2月6日（月）から平成24年2月20日（月）
正午まで

一般入試（Ⅱ期）

募集人員 約15名（全募集人員128名中）

試験内容

(1) 学力試験（出題範囲は一般入試（Ⅰ期）と同様とする。）

①外国語（英語）

②数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択

(2) 小論文

(3) 面接

※大学入試センター利用試験(Ⅱ期)を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成24年2月21日（火）から平成24年3月6日（火）
（郵送の場合、必着）

（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試験日 平成24年3月10日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18

合格発表日

平成24年3月13日（火）午後4時

入学手続

平成24年3月14日（水）から平成24年3月21日（水）
正午まで

大学入試センター利用試験（Ⅱ期）

募集人員 5名（全募集人員128名中）

出願資格

平成24年度大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

(1) 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

教科	科目	配点
外国語	「英語（リスニングを除く）」	100点
数学	「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目	100点
理科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目	100点

※理科について、2科目を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

(2) 小論文

(3) 面接

※一般入試(Ⅱ期)を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成24年2月21日（火）から平成24年3月6日（火）
（郵送の場合、必着）

（土・日・祝日は窓口での受付は行わない。）

試験日・試験会場

試験日 平成24年3月10日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎
千代田区三崎町2-9-18

合格発表日

平成24年3月13日（火） 午後4時

入学手続

平成24年3月14日（水）から平成24年3月21日（水）
正午まで

<学納金> . . . 全入試制度共通

入 学 金	600,000 円	(入学時のみ)
授 業 料	3,500,000 円	
歯学教育充実費	4,300,000 円	(入学時のみ)
施設維持費	1,000,000 円	
合 計	9,400,000 円	

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 金安純一 狩野龍二
椎名 裕 新谷益朗 高橋俊之 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博
前田健一郎 百崎和浩
（平成23年7月現在）



編集後記

平成23年6月1日、金子 譲前学長が第7代新理事長に就任されるとともに、翌月の7月1日付けで、井出吉信第11代新学長をトップとする、次の時代に向けた新しい体制が始まりました。

血脇守之助先生の大理石の胸像の前でにこやかに握手される、金子 譲新理事長と井出吉信新学長のまなざしの向うに、将来の東京歯科大学の形が見えてきます。

井出学長は学長就任挨拶の中で、「独自性を有する優秀な学生を確保し、その学生の勉学意欲を喚起するような環境や独自の魅力あるプログラムを構築し、国民から信頼される優秀な歯科医師を世に送り出すこと」が、東京歯科大学の教育方針であることを示されています。

「歯科医師たる前に人間たれ」との血脇守之助先生の言葉の下、120年の歴史の中、今この一瞬に東京歯科大学に在籍する多様性のある学生達が、それぞれの個性を伸ばしながら、人間性豊かな国民歯科医療を担う次の世代のリーダーとなっていくことでしょう。

13回目になる「かずさアカデミアパーク」での新入生学外セミナーが、122期の新入生128名を集めて開かれました。

入学から2ヶ月。すっかりクラスにもなじんできた学生達は、小グループに分かれた討議ではクラスの壁を越えて自分達の意見を述べ合う姿が見られました。ところが、準備したつもりでも、本番の発表やディベートになると・・・。

これから、122期の仲間とともに、いくつもの挫折や涙を越え、努力の積み重ねの中で、少しずつ自分を受け入れ、自信が持てるようになっていくのでしょうか。東京歯科大学が大好きという「愛校心」にあふれたチーム122期のひとり一人の未来を信じています。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）



「朝の光が差し込む千葉校舎のエントランス」
臙脂色の煉瓦の壁と白い階段の上で、血脇守之助先生の大理石の胸像が見守っています・・・。静謐な一瞬。